

SHIBAURA

取扱説明書

AM201A・AM301A・AM301AB



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

お使いになる前に必ず、取扱説明書をお読みください。

このたびはシバウラ乗用アプローチモアをお買い上げいただきありがとうございます。
しました。

この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して
正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書をいつも製品の近くに保存してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり譲渡するときは、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または破損された場合は、速やかに当社、または当社販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には安全に作業していただくために、「安全に作業するために」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことや、お気付のことがございましたら、お買い上げいただいた販売店へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載間違いなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

記号の見方



危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

[取り扱いの注意]

誤りやすい操作に対する注意を示します。

守らないと、機械の損傷や故障の原因となります。

〈参 考〉

作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用 目的について

本製品は、ゴルフ場・公園・スポーツフィールドなどの芝刈作業を目的とした機械です。使用目的以外の作業や急傾斜地など機械の能力を超えた場所では使用しないでください。

使用目的以外の作業や改造などは決して行なわないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

本文の概要

1章	安全な作業をするために必ずお守りください	● 安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目を見てください。また各安全銘板の内容と貼付位置を示します。	1
2章	サービスと保証について	● 保証書とアフターサービスについて説明します。	2
3章	各部の名称	● 本文中、よく使う部品の名前を紹介します。	3
4章	各部のはたらき	● 本文中、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明します。	4
5章	運転前・作業前点検のしかた	● 本機の点検箇所と、作業に適した服装などを説明します。	5
6章	運転と作業のしかた	● エンジンの始動から移動走行のしかた、およびトラックでの運搬のしかたを説明します。	6
7章	作業後の手入れのしかた	● 機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長時間使用しないときの手入れのしかたを説明します。	7
8章	モアの取り扱い	● モアの点検・調整のしかたを説明します。	8
9章	定期の点検・整備のしかた	● 長時間故障なく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明します。	9
10章	不調診断のしかた	● 正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明します。修理に出す前に確認してください。	10
11章	その他	● 主な消耗品、標準付属品、仕様、配線図を説明します。	11

もくじ

はじめに	1
お願い	1
おことわり	1
記号の見方（危険・警告・注意・取扱いの注意・参考）	2
本製品の使用目的について	2
本文の概要	3
1章 安全な作業をするために必ずお守りください	7
1. 一般的な注意事項	7
2. 運転する前に	8
3. 作業前後の点検や整備をするとき	9
4. 運搬するとき	12
5. 移動や圃場へ出し入れするとき	13
6. 作業をするとき	14
7. 作業終了後や格納するとき	16
8. 安全銘板の貼付け位置	18
9. 操作および装置のマーク	21
2章 サービスと保証について	21
1. 保証書は大切に保管してください	21
2. 補修部品の供給年限について	21
3章 各部の名称	22
1. 各部の名称	22
2. 各部の名称と機能	23
4章 各部のはたらき	24
1. シート・メータパネル関係	24
2. ペダル・レバー関係	25
5章 運転前・作業前点検のしかた	27
1. 作業者の体調・服装について	27
2. 点検のしかた	28

6章 運転と作業のしかた 29

1. ならし運転（最初の50時間）について	29
2. エンジンの始動・停止のしかた	29
3. モアを昇降させるには	30
4. カッター（回転刃）を回転させるには	30
5. 発進・旋回・停止のしかた	31
6. 作業のしかた	31
7. トラックへの積み込み・積み降ろしのしかた	33
8. 自走できなくなった時の牽引	34
9. ハンドル操作について	34
10. バケットの装着方法	35

7章 作業後の手入れのしかた 36

1. 作業後の手入れのしかた	36
2. フロントカバーの開閉のしかた	36
3. 長期間使用しない場合の手入れ	36

8章 モアの取り扱い 37

1. モアの取り外しのしかた	37
2. 切れ味の調整	37
3. 刈り高さの調整	38
4. ラッピング（研磨）による切れ味の調整	39
5. モア接地荷重の調整（ウエイトコントロール）	40
6. ベルトの調整	40

9章 定期の点検・整備のしかた 41

1. 定期点検一覧表	42
2. 燃料・オイル・グリスについて	42
3. 給油・給水一覧表	43
4. 燃料の点検・給油のしかた	44
5. 各部のオイルの点検・交換のしかた	44
6. 各部エレメントの交換のしかた	46
7. エアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた	48
8. 点火プラグの点検・交換のしかた	48
9. バッテリーの点検のしかた	49
10. パイプ類の点検について	49
11. 電気配線の点検について	49

もくじ

12. グリスアップ（注油）について	50
13. ベルトの点検・調整について	51
14. タイヤの点検について	51
15. ブレーキの点検・調整について	52
16. HST中立調整について	53
17. 旋回性能の調整について	53

10章 不調診断のしかた 54

1. エンジン関係	54
2. ブレーキ関係	55
3. 油圧関係	56
4. 電装関係	56
5. 作業機関係	56

11章 その他 58

1. 主な消耗部品	58
2. 標準付属品	58
3. 仕様	59
4. 配線図	60
5. 油圧回路図	61
6. 締付けトルク一覧	62

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守って下さい。
 - 記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
- ※ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1

1. 一般的な注意事項

警告

■ こんなときは、運転しない

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない。
- 酒をのんだとき
- 妊娠しているとき
- 18才未満の人

[守らないと]

思わぬ事故の原因となります。

■ 作業に適した服装をする

はち巻き、首巻き、腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具などを着け、だぶつきのない服装をしてください。

[守らないと]

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。

■ 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

[守らないと]

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

2. 運転する前に

警告

■ 運転者以外に人を乗せない

この機械の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

[守らないと]

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ エンジン始動時は必ず運転席にすわり、周囲の安全確認をする

エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

[守らないと]

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 寒冷時は暖機運転を実施する

寒冷時は暖機運転を必ず行なってください。

[守らないと]

機械の性能が十分に発揮できません。

■ マフラー・テールパイプの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後のマフラー・テールパイプは高温ですので、触れないでください。

[守らないと]

ヤケドするおそれがあります。

■ 機械の改造禁止

純正以外や指定以外のアタッチメントを取り付けしないでください。改造をしないでください。

[守らないと]

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

■ 点検・整備を行なう

機械を使う前と後には必ず、点検・整備をしてください。特にハンドル・ブレーキ・レバーなどの操縦装置、車輪などの走行装置および電気部品、コードは確実に作動するように点検・整備してください。

[守らないと]

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

■ 定期点検整備を受ける

年毎に定期点検を受け、各部の保守をしてください。

電気配線は年毎点検してください。

[守らないと]

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

3. 作業前後の点検や整備をするとき

危険

■ 注油・給油はエンジンが冷めてから行なう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

[守らないと]

燃料に引火して、火災をおこすおそれがあります。

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は絶対にしないでください。

[守らないと]

燃料に引火して、火災をおこすおそれがあります。

■ バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

[守らないと]

バッテリーに引火、爆発してヤケドなどを引きおこすおそれがあります。

■ バッテリ液は体につけないようにする

バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

[守らないと]

ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。

■ 燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

[守らないと]

火災事故を引きおこすおそれがあります。

■ 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

[守らないと]

火災事故を引きおこすおそれがあります。

警告

■ 点検整備は平坦で安定した場所で行なう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをして点検整備をしてください。

[守らないと]

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

警告

- **マフラー・テールパイプ・エンジン周りのゴミは取り除く**
マフラー・テールパイプやエンジン周辺部・Vベルトなど回転部に、芝・草・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。
[守らないと]
火災を引き起こすおそれがあります。

 - **タイヤには、規定の最大空気圧以上に空気をいれない**
タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気をいれないでください。
[守らないと]
タイヤが破損して、傷害事故をおこすおそれがあります。

 - **電気部品・コードを必ず点検**
配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。
[守らないと]
ショートして、火災をおこすおそれがあります。

 - **バッテリー液を「下限(LOWER)」以下にしない**
バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。
[守らないと]
「下限」以下になると容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

 - **排気ガスには十分に注意する**
閉め切った室内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、通風のよい室外で始動してください。やむを得ず室内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
[守らないと]
排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。

 - **ブレーキ・ハンドルの点検を必ず行なう**
ブレーキの効きが悪かったり片効きがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検してください。
[守らないと]
事故を引き起こすおそれがあります。
-

注意

- **高圧オイルに注意**
油圧の継手やホースにゆるみや破損がないかを常に確認し、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。
[守らないと]
高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故をひき起こすおそれがあります。

注意

■ バッテリーの取り付け取り外しは正しい手順で行なう

バッテリーを取り付けるときは+側を先に取り付け、取り外すときは一侧から取り外します。

[守らないと]

ショートして、ヤケドや火災事故をおこすおそれがあります。

■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

[守らないと]

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

[守らないと]

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。

■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行なう

マフラー・テールパイプやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

[守らないと]

ヤケドをするおそれがあります。

■ 目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を使用してください。また点検調整に必要な工具は機械に常備しておいてください。

[守らないと]

整備不良で事故を引きおこすおそれがあります。

4. 運搬するとき

警告

■ あゆみ板の上では、変速しない

坂道やあゆみ板の上での走行は十分注意して行ってください。坂道での2/3 駆切替レバーの切換えはしないでください。

[守らないと]

機械重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。

■ 強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用する

積込み、積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

[守らないと]

転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

■ ロープでトラックに確実に固定する

トラックに乗せて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、強度の十分あるロープでトラックに機械を固定してください。

[守らないと]

荷台から機械が転落したりして、事故を引き起こすおそれがあります。

■ 急な下り坂は2輪駆動にて走行する（3輪駆動車）

3輪駆動での急な下り坂の走行は危険です。2輪駆動に切り換えてから走行してください。

[守らないと]

後輪タイヤが空回りして、エンジンブレーキがきかなくなり、暴走するおそれがあります。

5. 移動や圃場へ出し入れするとき

警告

■ 一般道路走行禁止

特殊自動車の型式認定を取得していませんので一般道路は走行できません。

[守らないと]

道路交通違反により罰せられることがあります。

■ 周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

[守らないと]

傷害事故をおこすおそれがあります。

■ 移動時は路肩に注意

溝のある道路や両側が傾斜している道路では、路肩に十分注意してください。

[守らないと]

転落事故をおこすおそれがあります。

■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行なってください。旋回するときはスピードを落としてください。

また凹凸道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

[守らないと]

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。

■ 溝を渡るときはあゆみ板を使用する

圃場に入るとき、溝をわたるとき、軟弱な場所を通るとき、必ずあゆみ板を使用してください。

あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

[守らないと]

スリップや転倒による事故をおこすおそれがあります。

注意

■ 暖機運転中は駐車ブレーキを掛ける

[守らないと]

機械が自然に動きだし、事故を引きおこすおそれがあります。

■ 高速走行時、急激なブレーキ、ペダル操作はしない

[守らないと]

転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

6. 作業をするとき

警告

- **モアの着脱は平坦な場所で行なう**
モアの着脱は、平坦で安定した場所で行なってください。夜間は適切な照明をしてください。
[守らないと]
事故を引き起こすおそれがあります。

- **人や物をウエイト代わりにしない**
ウエイト代わりに人や物をのせないでください。
[守らないと]
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- **機械とモアの周辺に人を近づけない**
機械を移動するときは、機械の周辺やモアとの間に人が入らないようにしてください。
[守らないと]
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- **作業時には3輪駆動（3駆）で走行する（3輪駆動車）**
作業時には必ず3輪駆動で行ってください。3輪駆動での作業は車体のバランスがくずれのを防ぎ、転倒やスリップ事故を防ぎます。
[守らないと]
バランスを崩し事故を引き起こすおそれがあります。

- **急な下り坂は2輪駆動にて走行する（3輪駆動車）**
3輪駆動での急な下り坂の走行は危険です。2輪駆動に切り換えてから走行してください。
[守らないと]
後輪タイヤが空回りして、エンジンプレーキがきかなくなり、暴走するおそれがあります。

- **傾斜が20°以上のところでは作業しない**
地面の傾斜が20°以上の場所では作業しないでください。
[守らないと]
転倒、スリップ事故をおこすおそれがあります。

- **保護具は必ず着用する**
保護メガネ・ヘルメット・滑り止めのついた靴を必ず着用してください。
[守らないと]
傷害事故を負うおそれがあります。

- **モアの下にもぐったり、足を入れない**
モアの下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。
[守らないと]
モアが下がったとき、傷害事故を負うおそれがあります。

警告

■ 作業前に、圃場内にある石などの障害物を取り除く

[守らないと]

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止は、ゆっくりと行なってください。旋回するときは、十分スピードを落としてください。また傾斜地や凹凸のあるところでは、速度を落としてゆっくりと移動してください。

[守らないと]

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。

■ 巻き付き、詰まり点検は必ずエンジン停止

回転刃やプーリー、ベルト等に巻き付いた芝・草を取ったり、モアの詰まりを見るときは、必ずエンジンを停止してください。

[守らないと]

折損や挟まれの巻き込まれ事故をおこすおそれがあります。

■ 傾斜地では変速禁止（3輪駆動車）

予め適正な変速を選び、傾斜地で変速しないようにしてください。

[守らないと]

転落事故、機械の損傷をおこすおそれがあります。

■ 子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

[守らないと]

傷害事故引きおこすおそれがあります。

■ 異常な振動が出たら、直ちに点検・修理を行なう

異常な振動が出たら直ちにエンジンを停止し、原因を調べて修理してください。

[守らないと]

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

■ モアの排出口には、人を近づけないこと

芝・草やホコリが飛び出します。石などが飛び出すことがあります。

[守らないと]

傷害事故を引きおこすおそれがあります。

■ わき見、手放し運転はしない

[守らないと]

傷害事故を引きおこすおそれがあります。

■ 機械から離れるときは平坦地に置き、エンジンを止める

機械から離れるときは平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。またモアは地面に接地してください。

[守らないと]

機械が動き出し、事故をおこすおそれがあります。

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

警告

■ 運転者以外に人を乗せない

この機械の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

[守らないと]

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

7. 作業終了後や格納するとき

危険

■ 注油・給油はエンジンが冷えてから行なう

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

[守らないと]

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。

■ シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラーやエンジンが十分に冷めてからかけてください。

[守らないと]

火災事故を引き起こすおそれがあります。

警告

■ 点検整備は平坦で安定した場所で行なう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、機械の前輪には車止めをして点検整備をしてください。

[守らないと]

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■ マフラー・テールパイプ・エンジン周りのゴミは取り除く

マフラー・テールパイプやエンジン周辺に、芝・草・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業後に点検してください。

[守らないと]

火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業後に点検してください。

[守らないと]

ショートして、火災をおこすおそれがあります。

■ 長期格納時はバッテリーとキーを外す

長時間使用しないで格納する場合は、バッテリーを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

[守らないと]

事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないかを常に確認し、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

[守らないと]

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリーの取り付け取り外しは正しい手順で行なう

バッテリーを取り付けるときは+側を先に取り付け、取り外すときは-側から取り外します。

[守らないと]

ショートして、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

[守らないと]

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

[守らないと]

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行なう

マフラー・テールパイプやエンジンなどの過熱部分が十分冷めてから点検整備をしてください。

[守らないと]

ヤケドをするおそれがあります。

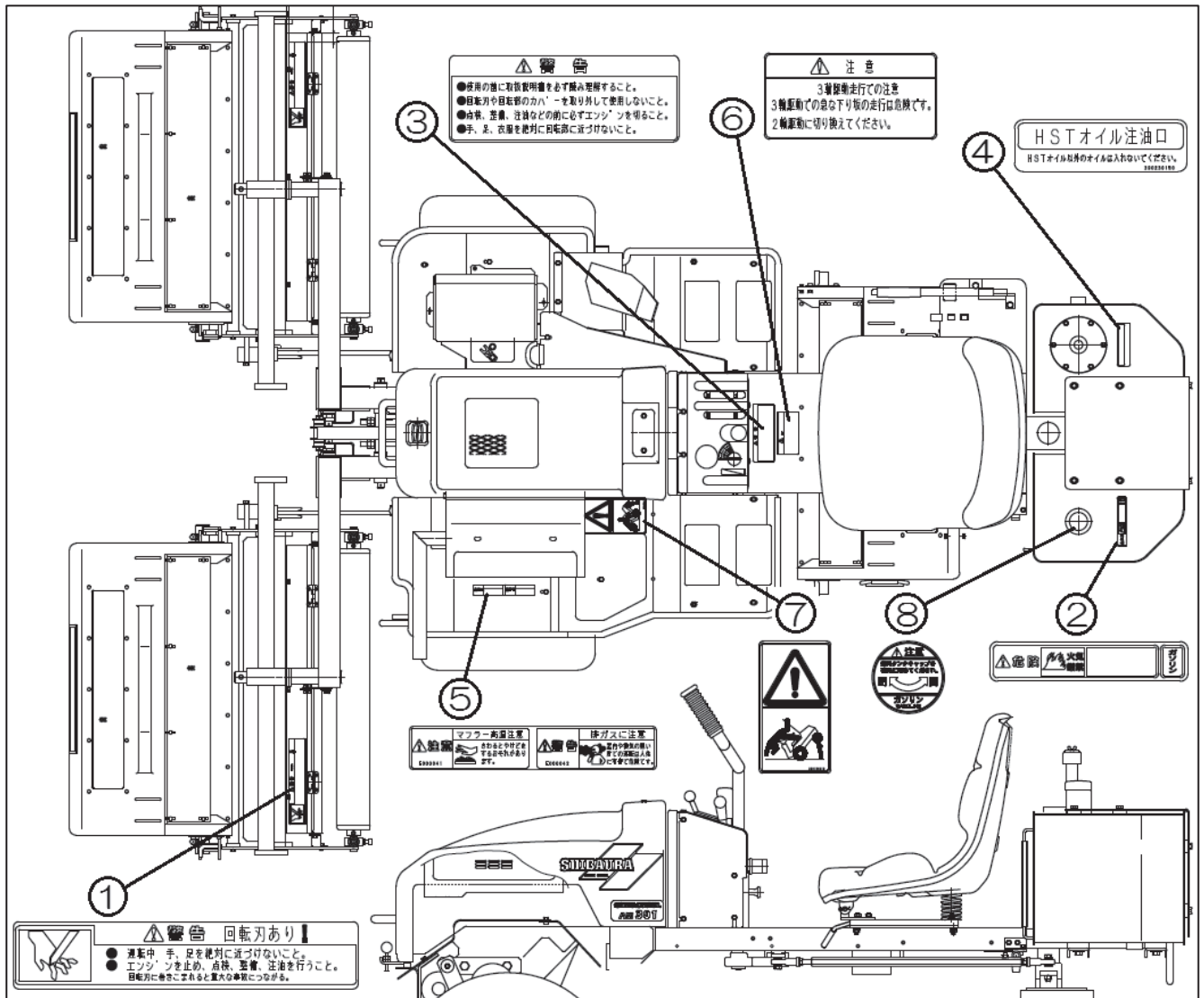
1章 安全な作業をするために必ずお守りください

8. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために、安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板は常に汚れや破損しないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼りなおしてください。

ラベル貼付位置



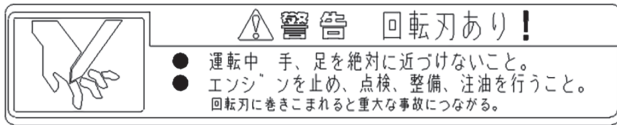
No.	部品番号	名称	No.	部品番号	名称
1	A90610060	コーションプレート:ホンキ	5	A90610160	コーションプレート:ホンキ
2	A90610170	コーションプレート:ホンキ	6	A90610240	コーションプレート:ホンキ
3	A90610030	コーションプレート:ホンキ	7	390196910	コーションプレート
4	390230180	キューユシジマーク	8	290192670	コーションプレート

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

安全銘板

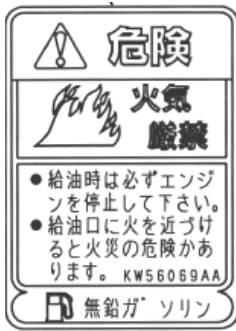
機械を安全に使用していただくために、機械には安全銘板が貼られています。それらの意味を以下に説明しています。この取扱説明書の安全に関する章を注意深く読むことを推奨します。

1. 警告



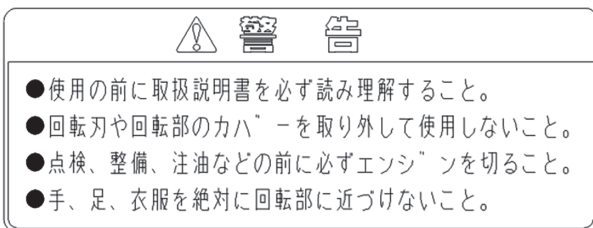
- 回転刃に注意し、巻き込み事故の防止を呼びかけるラベルです。
- 運転中に手、足を回転部に近づけないで下さい。
- 点検、整備、注油は必ずエンジンを停止させてから行ってください。

2. 危険



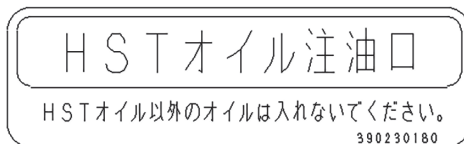
- 給油時は必ずエンジンを停止してください
- 給油口に火を近づけると火災の危険がありますので、火を近づけないでください。
- 燃料は自動車用無鉛ガソリンをご使用ください。

3. 警告



- 本製品をご使用いただく前に、取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
- 回転刃や回転部は巻き込まれの危険がありますので、カバーを取り外した状態では使用しないでください。
- 点検、整備、注油などの前には必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- 巻き込まれ事故を防ぐため、手、足、衣服は回転部に近づけないでください。

4. 注意



指定のHSTオイル以外のオイルは入れないでください。機械の故障の原因となります。

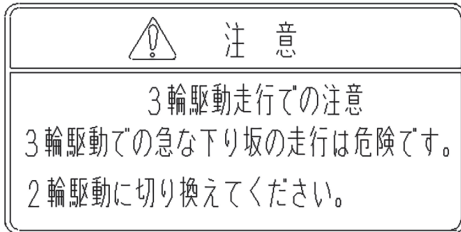
1章 安全な作業をするために必ずお守りください

5. 注意・警告



- 高温部には触れないでください。火傷をする恐れがあります。
- エンジンの始動は換気の良い場所で行ってください。
- エンジンの排気ガスには人体に有害なガスが含まれており危険です。

6. 注意



3輪駆動での急な下り坂の走行は危険です。2輪駆動に切り換えてから走行してください。後輪タイヤが空回りして、エンジンプレーキがきかなくなり、暴走するおそれがあります。

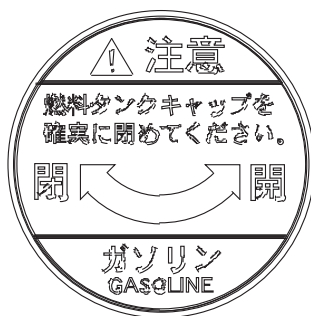
7. 警告 (AM301AB仕様のみ)



急停車禁止

高速走行中、あるいは坂道での急停車は非常に危険です。急停車により転倒のおそれがあります。

8. 注意













- 燃料タンクキャップを確実にしめてください。
- 燃料は自動車用無鉛ガソリンをご使用ください。

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

9. 操作および装置のマーク

本機に使用されている操作および装置のマークは下記のとおりです。

 チョーク	 低速	 エンジン停止
 警告・注意	 高速	 キーON
 刈取りON	 駐車ブレーキ	 エンジン始動
 刈取りOFF		

2

2章 サービスと保証について

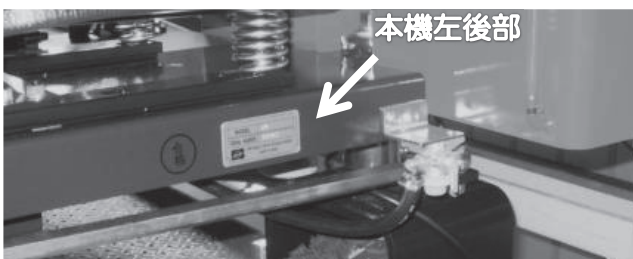
1. 保証書は大切に保管してください。

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

（保証書は、本書最終ページに「安全説明確認カード」と共に添付してあります）なお、ご使用中の事故やご不審な点については購入先、または弊社営業所（この説明書裏参照）にお気軽にお問合せください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 本機型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジンモデル、タイプ番号
- モアの場合はモアの仕様
- ご使用状況（どんな作業をしていたら）
- どのくらい使用しましたか（使用時間）
- 不具合が発生したときの状況を出来るだけ詳しく教えてください。

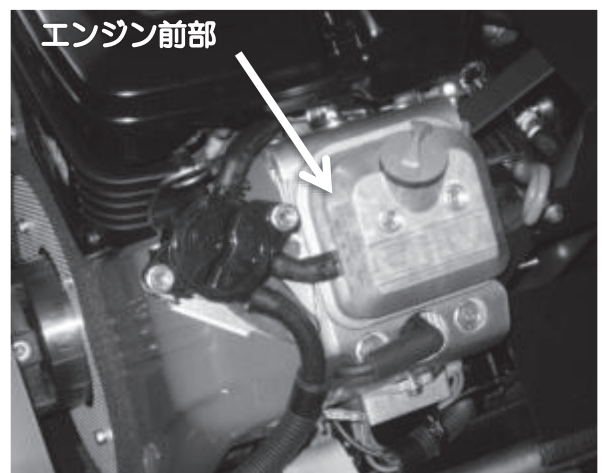


本機左後部

本機型式名・製造番号

2. 補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品供給年限（期間）は、製造打ち切り後8年です。ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には納期および価格についてご相談させていただきます。

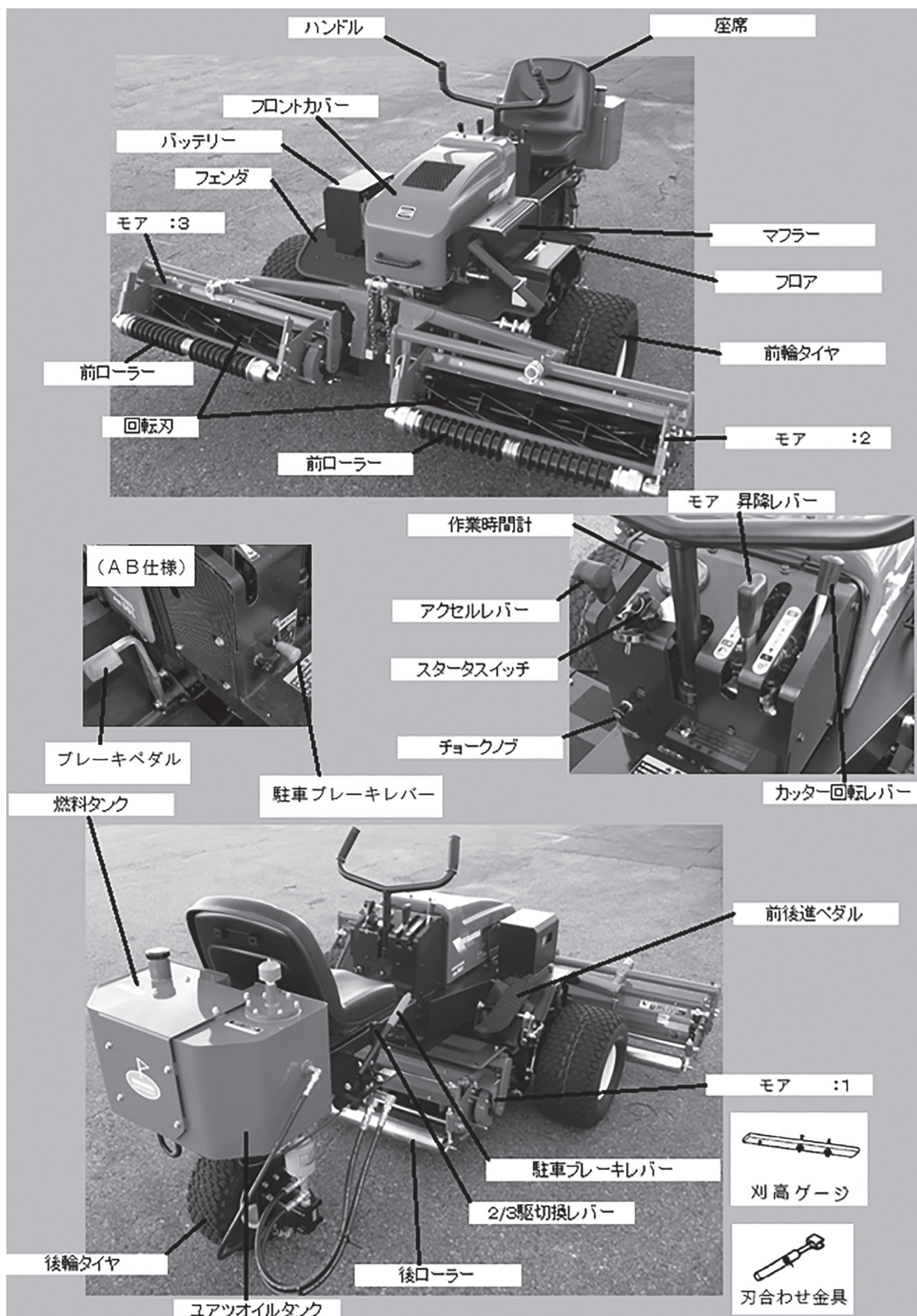


エンジン前部

エンジンモデル・タイプ番号

3章 各部の名称

1. 各部の名称



3章 各部の名称

2. 各部の名称と機能

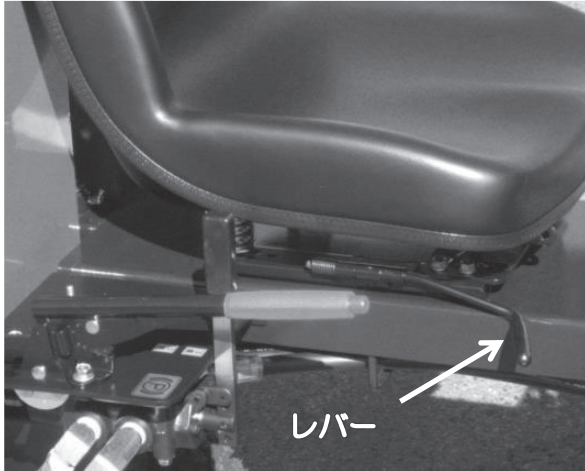
名 称	機 能 説 明
モア（作業機・カッター）	●回転刃を格納している部分の総称で、取付位置により「1」（中） 「2」（右）「3」（左）と番号がついています。
フロントカバー	●エンジンのカバーです。
駐車ブレーキレバー	●本機を駐車するときのブレーキのレバーです 注）AB仕様では、ブレーキの取付位置、操作方法がことなります。（P25 参照）
ハンドル	●後輪の向きを操作し、走行の際方向転換を行います。
座席（シート）	●作業者が乗車するための座席です。便乗者は絶対にのせないでください。
油圧オイルタンク	●油圧機器の作動用オイルのタンクです。
タイヤ	●走行用タイヤです。
回転刃	●芝を刈るための刃です。
下刃	●回転刃と対をなす刃で、刃の先端部から地面までの距離が芝生の「刈高」になります。
前ローラ、後ローラ	●回転刃を地面から一定の高さに保ち、芝生を地面から決められた高さに刈りそろえるためのローラです。後ローラは刈高の微調整ができます。
刈高ゲージ	●前後ローラの接地面に当て下刃の高さを刈高に調整するゲージです。
刃合わせ金具	●回転刃を手動で回転させるときに使用する工具です。
燃料タンク	●燃料を入れるタンクです。
フロア	●走行、作業時に足を置く場所です。
バッテリー	●エンジンを始動させるための電源です。
カッター回転レバー （カッタークラッチ）	●回転刃の「回転」「停止」の切換えに使用するレバーです。
モア昇降レバー	●モアを昇降させるレバーです。
座席調整レバー	●作業者の体格に合わせて座席を前後させるためのレバーです。
2/3 駆切換レバー	●走行する際、2 輪駆動 / 3 輪駆動を選択するレバーです。
作業時間計 （アワメータ）	●積算された作業時間が数字で表示されます。
チョークノブ	●冷えたエンジンを始動する際、燃料混合気を濃くするのに使用します。
アクセルレバー	●エンジンの回転数を調整するためのレバーです。 上に動かすとエンジン回転数があがります。
スタータスイッチ	●エンジンを「始動」「停止」するためのスイッチです。
前後進ペダル	●前進、後進と速度を制御するペダルです。
ブレーキペダル	●本機を停止させるときのペダルです。本機は前後進ペダルを離せば自然に停止しますので、駐車時又は緊急停止時以外は多用しないでください。

4章 各部のはたらき

1. シート・メータパネル関係

①座席（シート）

●前後調整



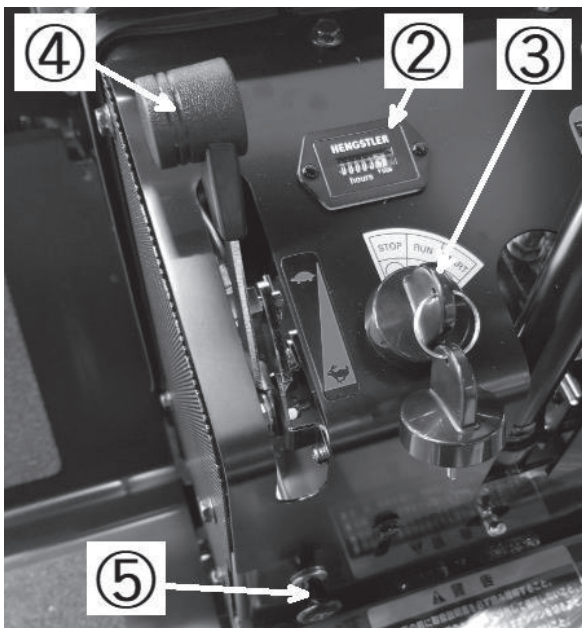
レバーを引くとシートが前後にスライドします。位置が決まったら手を離し、前後に動かないことを確認してください。

②.アワメータ

アワメータは、総運転時間を示します。機械の定期点検・整備はこの数字に基づいて実施してください。

右端の数字は 0.01 時間（36 秒）を表します。

例 1234.05 --(1234 時間 3分)



③スタータスイッチ

⚠ 注意

機械を使用しないときは、必ずキーを抜いて安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し事故を起こす恐れがあります。ま

エンジンの始動に使用します。

[STOP]：エンジンが停止し、電流が流れません。（キーを抜き取れます）

[RUN]：各電装品スイッチに電流が流れません。

[START]：セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離してください。キーは自動的に [ON] の位置に戻り、連続運転に入ります。

④アクセルレバー

エンジンの回転数を調節します。

[]：エンジン回転数が低くなる

[]：エンジン回転数が高くなる

⑤チョークノブ

冷えたエンジンを始動する際、燃料混合気を濃くするのに使用します。

エンジン始動時にノブを手前に引いてください。

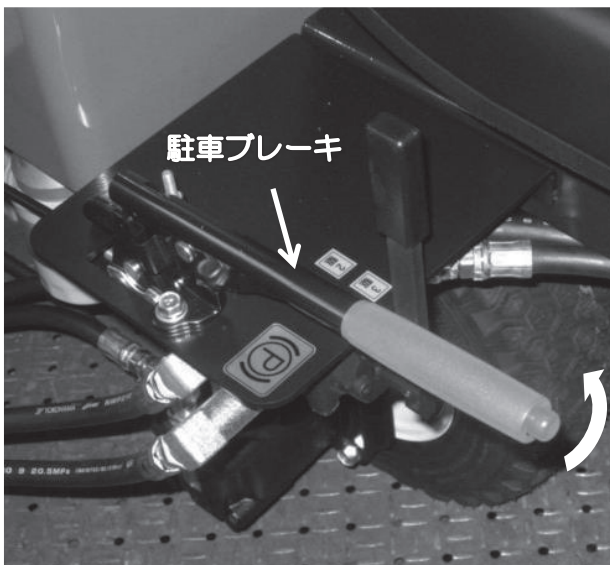
エンジン始動後は元の位置に戻してください。

4章 各部のはたらき

2. ペダル・レバー関係

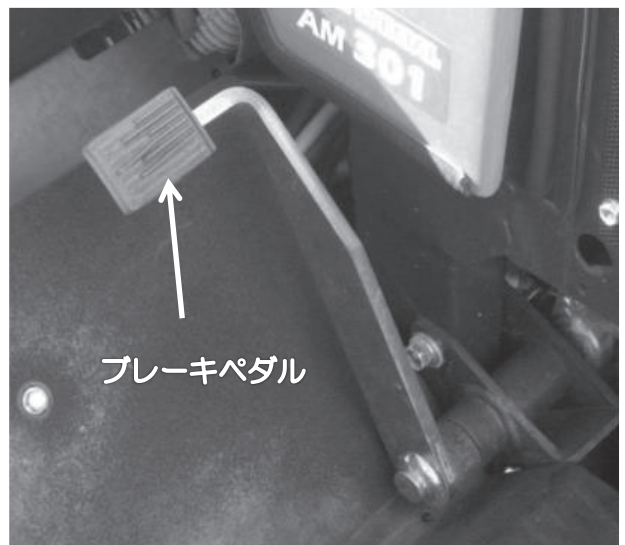
①ブレーキ

- 駐車ブレーキ（AB仕様のものをぞく）



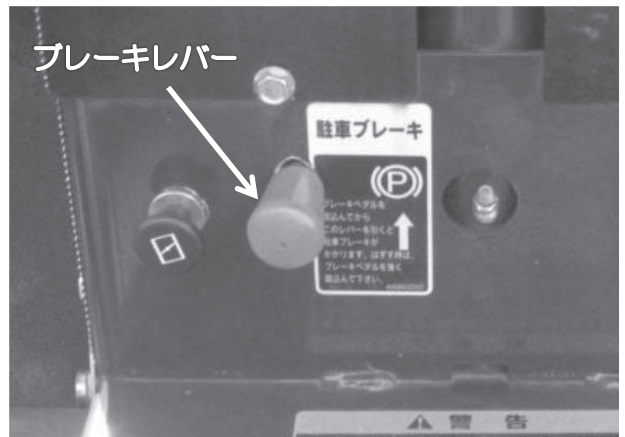
車両停車時にレバーを引くと駐車ブレーキがかかります。解除するときはレバー先端のボタンを押して下げてください。本機から離れるときは駐車ブレーキをかけてください。

- ブレーキペダル（AB仕様のみ）



本機を停止させるときに使用します。ペダルを踏み込むことでブレーキがかかります。

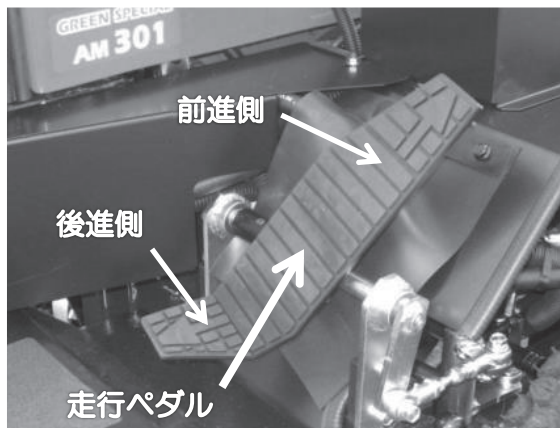
- 駐車ブレーキ（AB仕様のみ）



車両停車時にブレーキペダルを踏み込んだ状態で、レバーを引き上げるとブレーキペダルが固定されます。解除するときは、ブレーキペダルを強く踏み込んでください。レバーが下がりブレーキペダルが立ち上がります。

4章 各部のはたらき

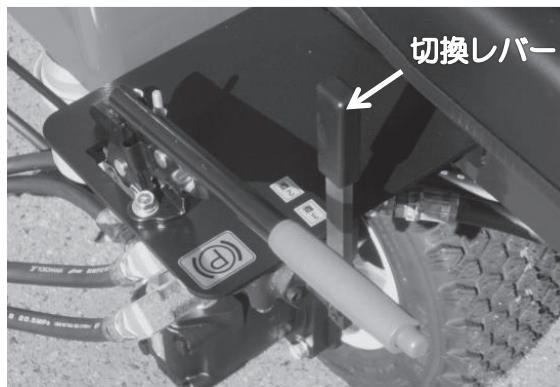
②走行ペダル



本機を前進させるには走行ペダルの前進側、後進させるには後進側を踏みます。この機械にはクラッチペダルはなく、走行ペダルの踏み具合（強弱）により速度を上げたり下げたりできます。

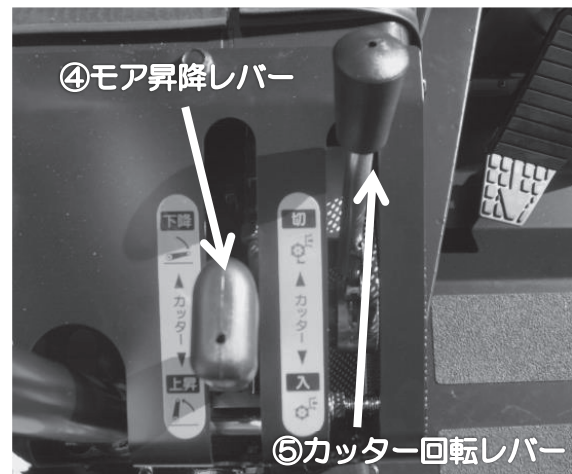
走行ペダルの踏み具合で発進時の速度が異なりますので、発進時にゆっくり踏み込んでください。平坦地において、ペダルから足を離すと、ペダルは自動的に中立位置に戻り本機は停止します。

③2/3駆切換レバー（3駆仕様のみ）



2輪駆動と3輪駆動の切換を行います。手前に引くと、「2駆」前方へ倒すと「3駆」に切り替わります。作業は「3駆」で行い、急斜面を下るときは「2駆」にしてください。

④モア昇降レバー



モアを昇降するとき 사용합니다。レバーを手前に引くとモアが上昇し、前方に押すとモアが下降します。全てのモアが上昇または下降し終わるまで操作し続けてください。レバーから手を離すと中立の位置に戻ります。

⑤カッター回転レバー

カッター（回転刃）回転の入切をするとき 사용합니다。手前に引くとカッターが回転し、奥に倒すとカッターの回転が停止します。手を離してもレバーはその位置を保持します。



危険

- 点検・整備・調節を行なうときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから行なってください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油・給水は絶対にしないでください。ヤケドをするおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえ煙草・裸火照明は絶対にしないでください。また燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災の原因になります。
- 燃料パイプが破損していると、燃料漏れを起こすので、必ず点検してください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。



警告

- 安全で快適な作業を行なうには、本機を使用する人が一日一回、作業前点検を行なうようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了後も異常がないかチェックしてください。
- 点検整備は交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、車止めした上で行なってください。守らないと機械が転倒するなど事故を起こすおそれがあります。
- 運転・作業前の点検時にエンジンを始動して行なう場合は、閉め切った室内で行なわないでください。
- 運転・作業前点検をするときは、点検者以外の人（特に子供）を近づけないでください。



注意

- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、火傷を負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。

1. 作業者の体調・服装について

①体調について

作業を行なうときは、健康な状態で行なってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときは、作業を行なわないでください。特に、お酒を飲んでいる・妊娠している・18才未満の人は作業を行なわないでください。

②服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などの滑り止めのついた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。

※タオルをはち巻き・首巻き・腰タオルにして作業を行なわないでください。

5章 運転前・作業前点検のしかた

2. 点検のしかた

安全で快適な作業を行なうために、本機を使用する人が一日一回作業前の点検を以下の要領に従い行ってください。異常箇所は直ちに整備してください。また、作業中に異常を感じたら、すぐに点検・整備をしてください。

①本機の周りを回ってみて	参考ページ
● タイヤの空気圧、摩耗状態・損傷はありませんか	51
● 車輪取付けボルトのゆるみはありませんか	51
● 燃料の量と燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか	41,344
● オイルタンクの量と汚れ、油漏れはありませんか	45
● バッテリー液の量は正常ですか	49
● 各部の変形・損傷・汚れはありませんか	
● 車体各部の損傷、ボルトのゆるみはありませんか	

②フロントカバー開けてみて	参考ページ
● エンジンオイルの量と汚れ、燃料漏れはありませんか	44
● エアクリーナの汚れはありませんか	48
● ベルトの張り不足や、損傷はありませんか	40,51
● エンジンルーム内のホコリや芝カスはありますか	36
● 配線コードの被覆のはがれや接触部のゆるみはありませんか	49

③作業機（モア）関係	参考ページ
● 回転刃の変形、損傷、摩耗はありませんか	
● 各リンク部の変形、損傷、摩耗はありませんか	
● ローラの損傷、摩耗はありませんか	

④運転席に座ってみて	参考ページ
● ブレーキの作動具合は適正ですか	25,52
● 走行ペダルの作動具合は適正ですか	26
● シートの位置は適正ですか	24

⑤エンジンを始動してみる	参考ページ
● 排気ガスの色は正常ですか	55
● メータ類の作動は正常ですか	24
● エンジン始動後の異音・振動はありませんか	

6章 運転と作業のしかた

1. ならし運転（最初の50時間）について

新車は使用時間50時間までの取り扱いが大変重要です。機械の寿命、性能に大きく影響します。この期間中は、次の点に注意して正しく取り扱ってください。

- (1) 急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
- (2) 必要以上のスピードや負荷をかけないでください。
- (3) 運転はエンジンが十分暖まってから行なってください。
- (4) 悪路や傾斜地では、速度を落としてゆっくり走行してください。
- (5) 使い初めて最初の50時間目には、42ページの「1. 定期点検一覧表」に従い各部の点検、オイル交換などをしてください。

2. エンジンの始動・停止のしかた

⚠ 警告

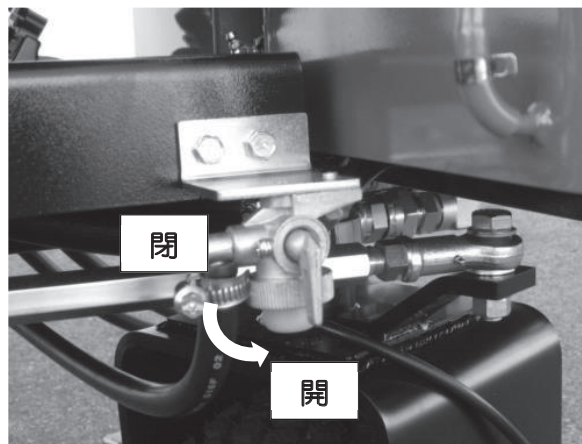
- エンジン始動時は、必ず運転席に座ってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、傷害事故を起すおそれがあります。
- 閉め切った室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい室外で始動してください。やむを得ず室内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと排気ガスによる中毒を起し、死亡事故を起すおそれがあります。

⚠ 注意

- 機械を使う前と後には、必ず点検・整備をしてください。特にブレーキ、レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと傷害事故を起したり、機械の故障をまねくおそれがあります。
- 暖機運転中は駐車ブレーキを掛けてください。守らないと何らかの原因で機械が走り出し、事故を起すおそれがあります。

始動のしかた

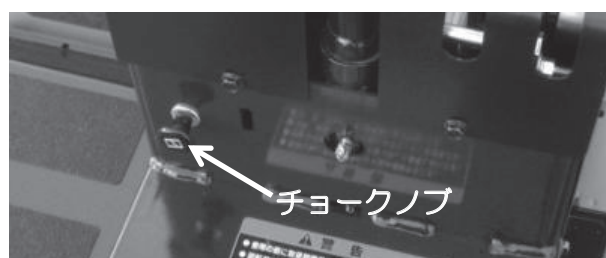
- (1) 燃料コックを「開」にします。
(燃料タンク下部)



- (2) シートに座ります。
 - (3) ブレーキを踏みこみます。または駐車ブレーキをかけます。(P 25 参照)
- ※ AB仕様はブレーキセーフティスイッチがついていますので、ブレーキがかかった状態でないとエンジン始動ができません。
- (4) 前後進ペダルがニュートラルの位置にあることを確認します。
 - (5) カッター回転レバーが「切」位置にあることを確認します。

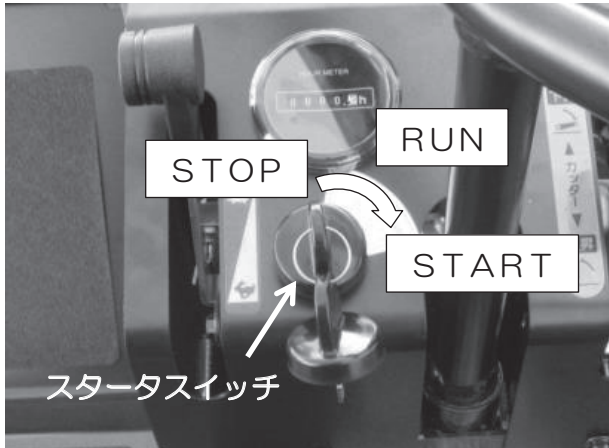


- (6) チョークノブをいっぱい引いてください。
- 一度エンジンが始動した後、再始動する際にはチョークノブを引く必要はありません。



6章 運転と作業のしかた

- (7) アクセルレバーを高速と低速の中間位置にします
- (8) スタータスイッチを時計方向に「START」位置までいっぱいに回してください。



- セルモーターが回転しエンジンが始動します。
 - 排気口以外から白煙が出るなど緊急の場合、直ちにスタータスイッチを「STOP」の位置にしてください。
- (9) エンジンが始動したら、すみやかにスタータスイッチから手を離します。キーは [RUN] 位置に戻ります。
- (10) エンジン始動後は2～3分間暖機運転をしてください。

[取り扱いの注意]

- セルモーターは大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。(10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから同じ操作をもう一度繰り返してください。)
- エンジン回転中は絶対にキースイッチを [START] 位置にしないでください。

停止のしかた

アクセルレバーを「低速」位置にして、スタータスイッチを反時計方向に「STOP」の位置にするとエンジンが停止します。

3. モアを昇降させるには



モア昇降レバーを手前に引くとモアが上昇し、前方に押すとモアが下降します。

- 全てのモアが上昇または下降し終わるまで操作し続けてください。
- レバーから手を離すと中立の位置に戻ります。
- 斜面走行中には昇降レバーの操作を行わないでください。重心の移動による転倒の可能性があります。

4. カッター（回転刃）を回転させるには



手前に引くとカッターが回転し、奥に倒すとカッターの回転が停止します。

手を離してもレバーはその位置を保持します。

- 作業時以外は常に「切」の位置にしてください。意図せずカッターが回転し、事故が起きるのを防ぎます。

5. 発進・旋回・停止のしかた



警告

- 発進するときは、周囲の人に合図して周囲の安全を確認した上で、急発進しないようにゆっくり発進してください。守らないと、傷害事故を起すおそれがあります。
- 本機は特殊自動車の型式認定を取得していませんので一般道路(公道)の走行はできません。道路交通法違反になります。
- 作業中および移動中は、安全のためヘルメットをかぶってください。
- 運転者の他に人を乗せないでください。
- 急な発進・旋回・停止やスピードの出しすぎは禁止です。ゆっくり操作してください。
- 作業時は必ず3輪駆動で行ってください。3輪駆動での作業は車体のバランスがくずれのを防ぎ、転倒やスリップ事故を防ぎます。
- 3輪駆動での急な下り坂の走行は危険です。2輪駆動に切り換えてから走行してください。後輪タイヤが空回りして、エンジンブレーキがきかなくなり、暴走するおそれがあります。

① 発進のしかた



警告

- 傾斜地で2/3駆切換レバーの操作をしないようにしてください。(3駆仕様のみ)
守らないと機械の重みで走り出し、死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- (1) 2/3駆切換レバーを希望の位置にシフトさせます。(3駆仕様のみ)
 - (2) 昇降レバーでモアを上昇させます。
 - (3) 駐車ブレーキを解除してください。
 - (4) 前進あるいは後進ペダルを踏み込むと本機が動きます。

〔取り扱いの注意〕

- 走行するときはエンジン回転を上げてください。守らないと故障の原因になります。
- 2/3駆切換レバーをシフトするときは本機を停止してください。動いているとき操作すると故障の原因になります。

②旋回のしかた



警告

- 本機を旋回させるときは、十分減速してください。高速のまま旋回すると、横転して傷害事故を起すことがあります。
- 旋回するときは、作業終了後の地形をよく把握して作業をしてください。
- ハンドルの操作は走行しながらゆっくりと操作してください。機械の損傷や転倒を防止します。

③停止・駐車のしかた



警告

- 本機から離れるときは、地盤のしっかりした平坦で安定した場所を選び駐車してください。
- やむをえず傾斜地に停止する場合は、本機を横向きにして、前輪に車止めを行なってください。
 - (1) 前進・後進ペダルから足を離します。
 - (2) プレーキペダルを踏みます。(AB仕様のみ)
 - (3) 駐車ブレーキをかけます。
 - (4) モアを完全に下ろします。

6. 作業のしかた

より安全に完成度の高い作業をするために、以下の説明を十分理解され運転するようにしてください。



警告

- 圃場内の障害物は、あらかじめ取り除いてください。モアの回転刃を傷めるばかりか、モア本体・本機を破損する事故につながり大変危険です。
- 傾斜が20°以上の斜面では作業しないでください。転倒の危険があります。
- 作業前に本機周辺10m以内にいる人やペットを遠ざけてください。

6章 運転と作業のしかた

①モア使用上の注意

- (1) 初めてモアを使われる方、機械に慣れていない方は平坦な場所で操作を良く覚えてから使用してください。
- (2) 芝刈作業は、圃場の大きさ、形状、立木などの障害物の配置により適正な方法を決めてください。

②刈込み作業

- (1) エンジンを始動します。(P31 始動のしかた参照)
- (2) 芝刈作業開始位置まで本機を移動させます。(P31 発進のしかた参照)
- (3) 2/3 駆切換レバーを3 駆に入れます。
- (4) エンジン回転数を最高回転にします。
- (5) モア昇降レバーを下降側に押し、全てのモアを地面に接地させます。
- (6) カッター回転レバーを引いて「入」の位置にし、カッターを回転させます。
- (7) 走行ペダルを踏み込んで刈り込みます。
- (8) 刈り込みが終了したらカッターの回転を停止させてから、モアを上昇させます。



注意

- 刈込み作業終了後は必ずカッター回転レバーを「切」の位置にしてください。
- 本機は構造上、バック（後退）での芝刈作業はできません。芝刈り開始地点に戻ってから再度芝刈作業を行ってください。



危険

- エンジン回転中はモアに手足など絶対に近づけないでください。
- モア内部の芝を取り除くときは、必ずエンジンを停止させ、カッターが停止してから行ってください。

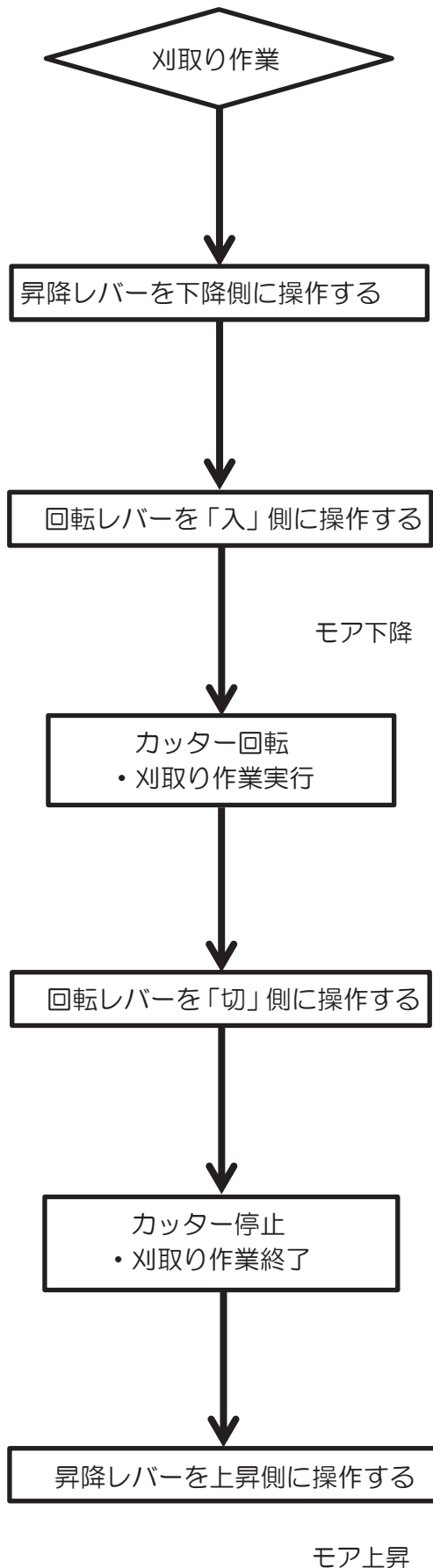
④傾斜地での芝刈作業



警告

- 転倒やスリップの危険性がある場所では運転しないでください。雨上がりなどは特にスリップしやすくなりますので、作業はしないでください。
- 傾斜地では作業前に全体の地形を把握してから作業を行ってください。
- 旋回は傾斜角度の緩やかな場所で行ってください。
- 20度以上の急傾斜地での作業は、しないでください。

[作業の流れ]



7. トラックへの積み込み・積み降ろしのしかた

警告

- トラックへの積み込み・積み降ろしは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
- 使用するあゆみ板（道板）は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選びあゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。
- 車両があゆみ板の上で横すべりしないようにタイヤに付いた泥などを落としてください。
- あゆみ板の上では絶対に方向転換しないでください。方向転換が必要な場合は、いったんあゆみ板より降りてからやり直してください。

①あゆみ板による積み込み・積み降ろし
〈あゆみ板の基準〉

- 長さ・・・車の荷台高さの3.5倍以上
- 幅・・・40cm以上
- 強度・・・620kgに十分耐えられるもの
- 表面が滑らないように処理してあること
- あゆみ板は、左右段違いにならないようにし、また荷台中心に対して左右均等な位置へ確実に取り付けます。

〈積み込み〉

- (1)モアがあゆみ板に当たらないように上昇させます。
- (2)あゆみ板に対してまっすぐに方向を定めてゆっくり積み込みします。
- (3)脱輪しないように、ハンドルは慎重に操作してください。
- (4)積み込みが終了したらエンジンを停止させ、ロープで車両を確実に固定してください。

〈積み降ろし〉

積み込みと逆の手順で行ってください。

6章 運転と作業のしかた

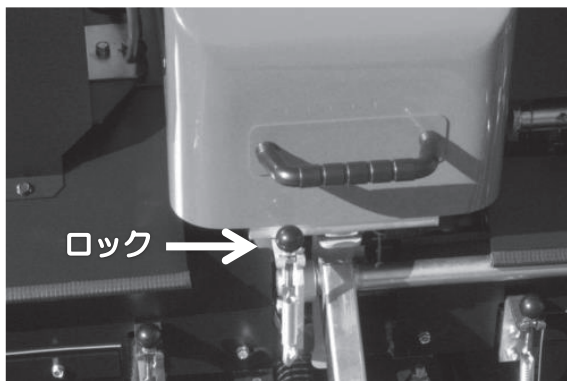
②運搬の方法

⚠ 警告

- 丈夫なロープを車輛に掛け、確実に固定してください。作業機は荷台の幅から出ないように確実に固定してください。守らないとトラックのブレーキを急にかけた時などに、車輛・作業機が荷台から転落・はみ出し思わぬ傷害事故の原因になります。

⚠ 注意

- トラックでの運搬時は、フロントカバーが開かないようロックしてください。守らないと、風などによりカバーが開いて、思わぬ傷害事故の原因になります。

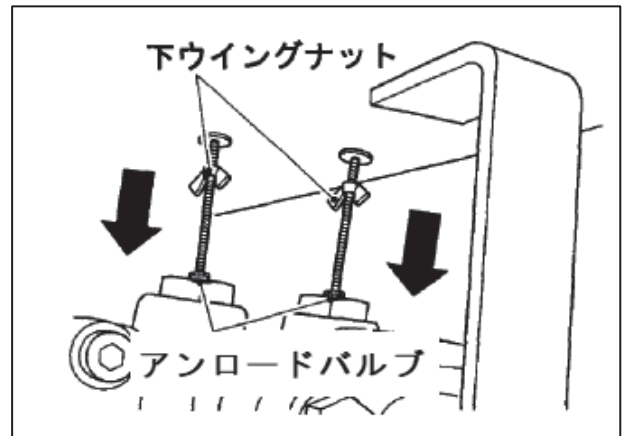


- トラックでの運搬時は、シートがはねあがらないようにロープで固定してください。守らないと、風などによりシートが暴れ、思わぬ傷害事故の原因になります。

8. 自走できなくなった時の牽引

- 万一油圧系統などの故障で自走できなくなったとき、油圧回路を開いて牽引走行ができる状態にすることができます。
- アンロードバルブを押すと、油圧回路が開き牽引走行する状態にすることができます。
- アンロードバルブはバッテリー下側にあるHSTポンプの上面にあります。
- 牽引走行を行なうときは、本機を次の状態にしてから行なってください。

- (1) エンジンを停止してください。
- (2) バッテリー下側にあるウイングナットをゆるめて、ボルトがアンロードバルブを押し込むように長さを調整してください。
- (3) アンロードバルブが押し込まれた位置でウイングナットにて固定してください。
- (4) 本機を牽引して、タイヤが回らないようであれば、再度調整してください。



9. ハンドル操作について

⚠ 警告

- 走行中の急なハンドル操作は、行わないでください。転倒、転落、機械の損傷の原因となります。

[取り扱いの注意]

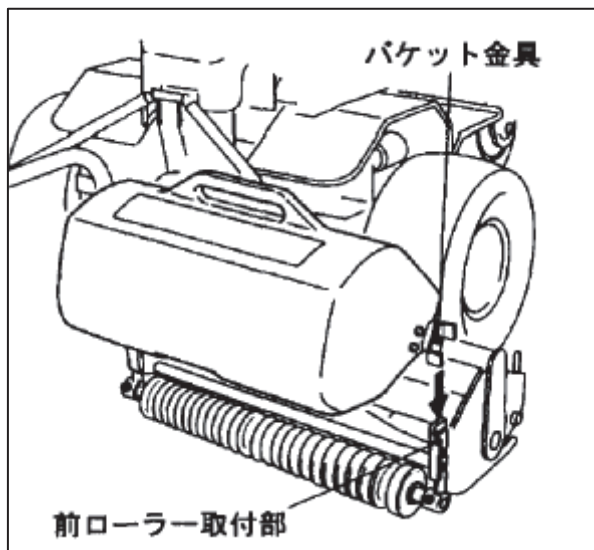
- 走行しないでハンドルを操作することは、タイヤやリムなどの損傷を早めますので、操作しないでください。

10. バケットの装着方法

●ユニットを地表に降ろしてからバケットの装着を行ってください。

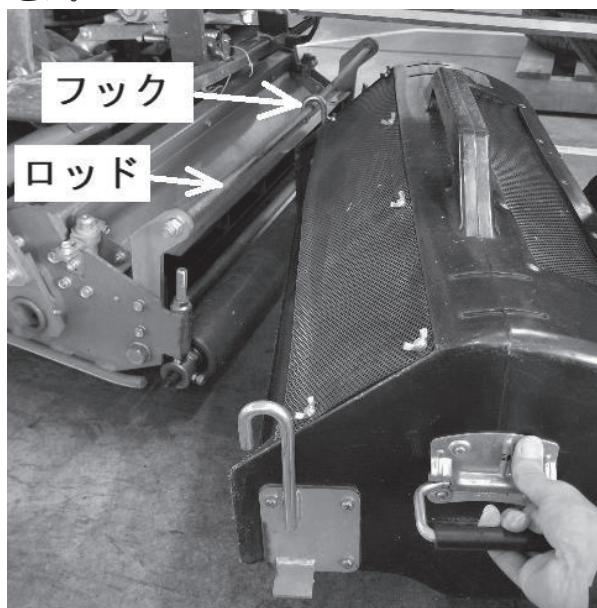
(1)前バケットの装着

前ローラ取り付け部にバケット金具を差し込みます。バケットが斜めになっていたり、他の部品と干渉していないか確認してください。



(2)後バケットの装着

ロッドにフックを引っかけてから奥にスライドさせます。バケット後部を持ち上げてユニットに装着します。バケットが斜めになっていたり、他の部品と干渉していないか確認してください。

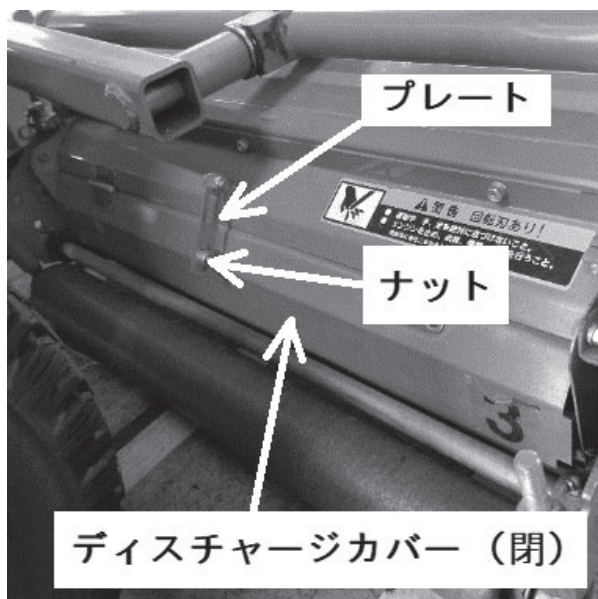


<バケットを装着しないで作業する場合>

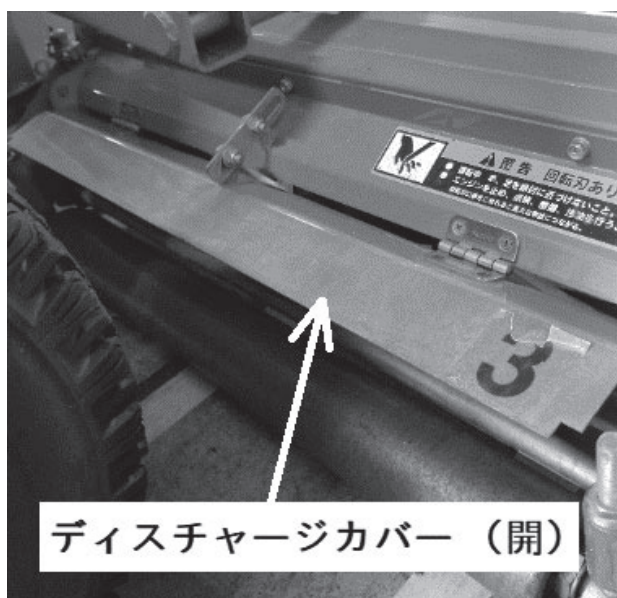
●ユニットを地表に降ろしてから作業を行ってください。

●ディスチャージカバーが可動式となっており、フロントユニットの芝の排出を後方に変えることができます。

(1)プレートを固定しているナットを2ヶ所ゆるめます。



(2)ディスチャージカバーを下図のように持ち上げた状態にし、ゆるめたナットを締め付けます。



芝の排出具合を確認し、ディスチャージカバーの角度を調整してください。

7章 作業後の手入れのしかた

1. 作業後の手入れ

⚠ 危険

- シートをかける場合はエンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してからかけてください。

使用后、本機はエアブローしてください。
モアは水洗いし、水洗い後エアブローして、水分を飛ばしてください。
各グリス注入部（グリスニップル）にグリスアップを行なってください。

⚠ 警告

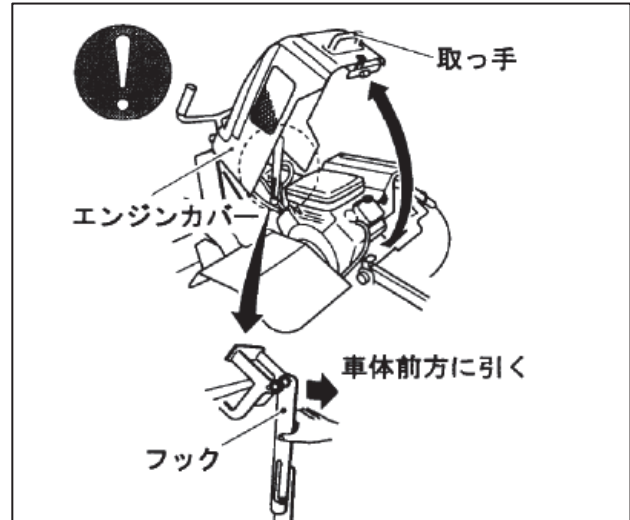
- 点検・整備・修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと機械に巻き込まれて、傷害事故を起すことがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

[取扱いの注意]

- 電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。

2. フロントカバーの開閉のしかた

- (1) フロントカバー前部にあるロックを外します。
- (2) 取手を持ち、カバーをいっぱいまで持ち上げてください。
- (3) フックがかかり、カバーが下がってこないことを確認したら手をはなします。
- (4) カバーを閉めるには、取手を持ちカバーを少し持ち上げながら下図のようにフックを前方にひき、フックが外れたらカバーを下げてください。
- (5) 最後にロックをしてください。



3. 長期間使用しない場合の手入れ

⚠ 警告

- 格納する場合は、バッテリーを取り外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

車両を長期間（一ヶ月以上）使用しない場合は、次の要領で整備し格納してください。

- (1) 乾燥した風通しの良い所でモアを降ろした状態にして、下には板を敷いてください。
- (2) 外部の錆びやすい部分に防錆油、またはエンジンオイル・グリスを塗ってください。
- (3) 燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。燃料コックは [C]（閉じの状態）にしてください。
- (4) バッテリーを完全に充電し、なるべく本機から取り外して、風通しの良い冷暗所に保管してください。また車両に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側（一側）を取り外してください。
- (5) キーを抜き取り、車両以外の場所に保管してください。

[取り扱いの注意]

- バッテリーは使わなくても自然放電します。一ヶ月に一度は充電器で完全充電してください。

8章 モアの取り扱い

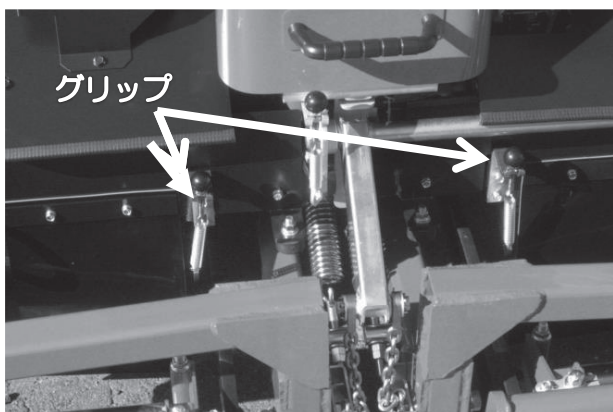
1. モアの取り外しのしかた



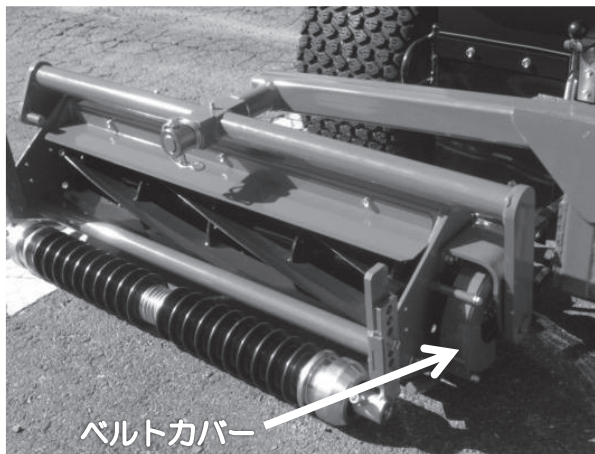
警告

- モアの取り付け、取り外しは平坦で安定した場所で行なってください。夜間は適切な照明をしてください。守らないと、事故を引き起こすおそれがあります。
- 本機を移動するときは、本機の周辺やモアの人に人が入らないようにしてください。守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- モアの取り付け、取り外し作業を行なうときは、必ずエンジンを停止させ、カッターの回転が止まってから行ってください。

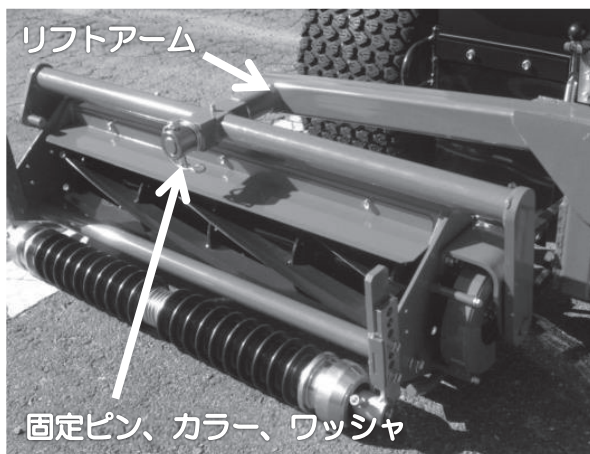
- (1)モアを下降させ、駐車ブレーキをかけたあとエンジンを停止してください。
- (2)下図のグリップを引張り、フックから外すと、ベルトのテンションがゆるみます。



- (3)ベルトカバーを固定しているボルトを取り外し、ベルトカバー取り外してください。



- (4)ベルトを外します。
- (5)固定ピンを抜き、カラー、ワッシャを外します。



- (6)モアを前方にスライドさせてリフトアームより引き抜いてください。
 - 手を挟まぬよう十分注意してください。
 - モアが外れると、リフトアームがスプリングの力で上方に上がります。ぶつかって怪我をしないよう十分注意してください。

2. 切れ味の調整

- 本機は出荷時に輸送などにおける回転刃による事故を防止するため、回転刃と下刃の間隔を広くしてありますので、芝刈作業前に間隔を調整する必要があります。
- 使用中に切れ味が悪くなった場合は回転刃を研磨し直し、回転刃と下刃の間隔を調整する必要があります。
- 作業スペースが確保できず、調整し難い場合は本機からモアを外して調整を行ってください。



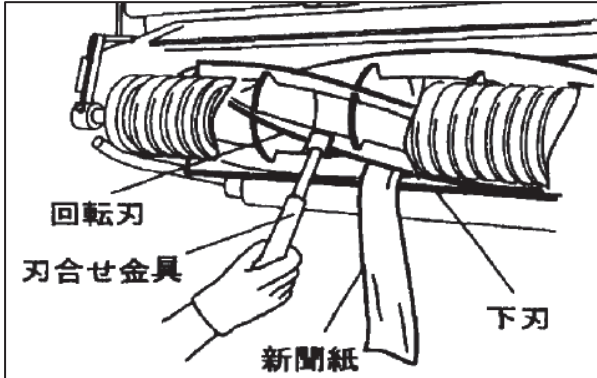
危険

- 調整を行なうときは、必ずエンジンを停止させ、回転刃の回転が止まってから行ってください。
- 回転刃の回転は必ず刃合わせ金具を使用してください。
- 回転刃に手で直接触れないでください。

8章 モアの取り扱い

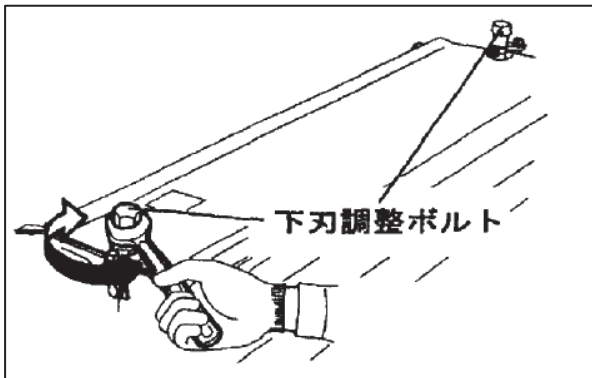
(1)回転刃の中央・左右の3ヶ所について、短冊型に裂いた新聞紙を回転刃と下刃の間にはさみ、刃合わせ金具で回転刃を下刃の方向に回し、切れ味をテストしてください。

●間隔が広すぎる場合は次項の手順で調整してください。



(2)スパナ等で下刃調整ボルトを固定しているボルト(右)(左)をゆるめ、スパナ等で下刃調整ボルト(右)(左)を時計方向に回し、回転刃と下刃の間隔をせまくしてください。

●回転刃と下刃の間隔は下刃調整ボルトを時計方向に回転させるとせばまり、反時計方向に回転させると広がります。



(3)回転刃の中央、左右の3ヶ所について、短冊型に裂いた新聞紙で切れ味をテストし、新聞紙がよく切れるまで調整を繰り返してください。

●全てのブレードで新聞紙がどの位置でも同じように切れるようになり、回転に異常がないことを確認してください。

●調整しても切れ味が向上しないときはラッピング(研磨)してください。(P39 ラッピング(研磨)による切れ味調整参照)

(4)調整が終わったら、スパナ等で下刃調整ボルトを固定しているボルト(右)(左)を締め、固定します。

3. 刈り高さの調整

●刈高の調整は回転刃と下刃の刃合わせをしてから行ってください。

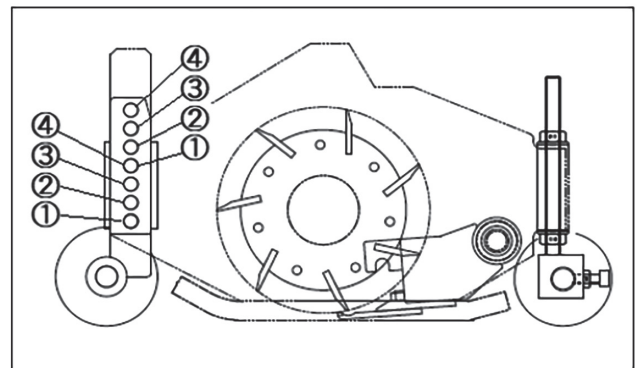
●刈高の調整は1ヶ所だけでなく3ヶ所のモアユニットすべてを行なってください。

●芝生を必要な高さに刈りそろえるには、前ローラと後ローラの高さを調整して行ないます。

(1)モアを上昇させエンジンを停止してください。
(2)前ローラブラケットを希望の刈高範囲になるように締め付けてください。

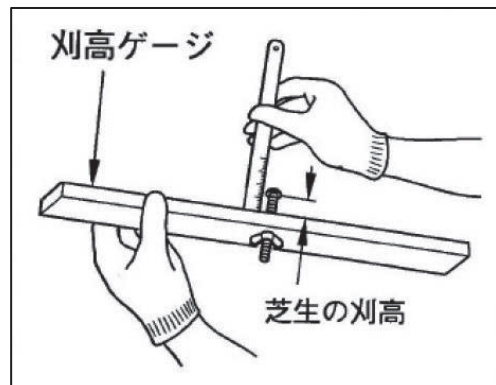
<刈高範囲による後ローラブラケット締付位置>

ボルト穴位置	刈り高さ (mm)
①-①	10~20
②-②	21~34
③-③	35~49
④-④	50~55



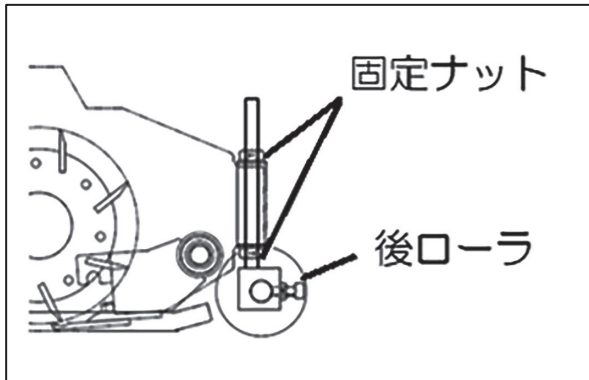
(3)刈高ゲージのネジの蝶ナットをゆるめ、ネジ頭の底部とゲージの間(ネジの首下)を物差しで測り、刈高と同じ寸法になるように調整し、蝶ナットを締めてネジを固定してください。

●この寸法が芝生の刈高になります。



8章 モアの取り扱い

- (4) 後ローラブラケットを固定しているナットをゆるめてください。
- (5) 前ローラと後ローラの接地面に刈高ゲージを当て、ゲージ中央部のネジの首下が下刃上面と一致するように後ローラの高さを調整してください。
- (6) 後ローラの左右について取付け位置の調整が終了したら、固定ナットを締め、後ローラの高さを固定してください。

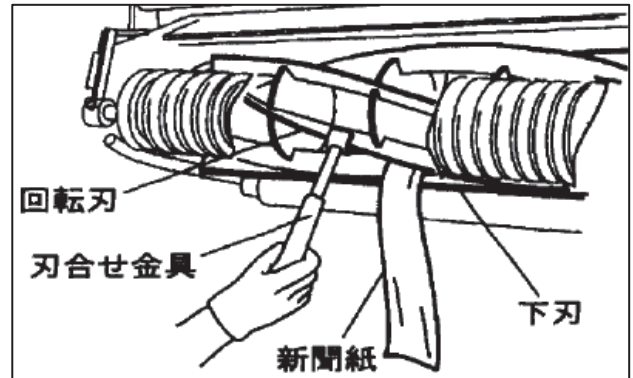


4. ラッピング（研磨）による切れ味の調整

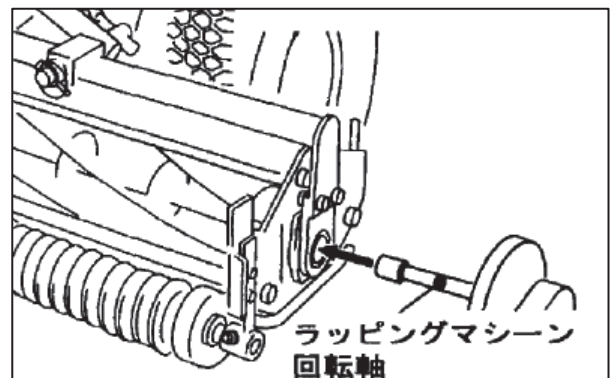
⚠ 警告

- 回転刃の回転は必ず刃合わせ金具を使用してください。
 - 研磨剤は、必ずブラシで回転刃に塗布してください。
 - 本機にラッピング機構はついておりません。ラッピングマシンを別途用意して作業を行ってください。
 - エンジンを停止した状態でラッピングを行ってください。
 - 作業スペースが確保できず、調整し難い場合は本機からモアを外して調整を行ってください。
- (1) モアを下降させ、駐車ブレーキをかけたあとエンジンを停止してください。
 - (2) カッター駆動用ベルトのテンションスプリングをフックから外し、ベルトをゆるめます。
 - (3) 再度エンジンをかけ、モアを上昇させエンジンを停止してください。
 - (4) 短冊型に裂いた新聞紙を回転刃と下刃の間にはさみ、刃合わせ金具で回転刃を回して切れ味をテストして切れ味の良いところにチョークなどで印をつけてください。

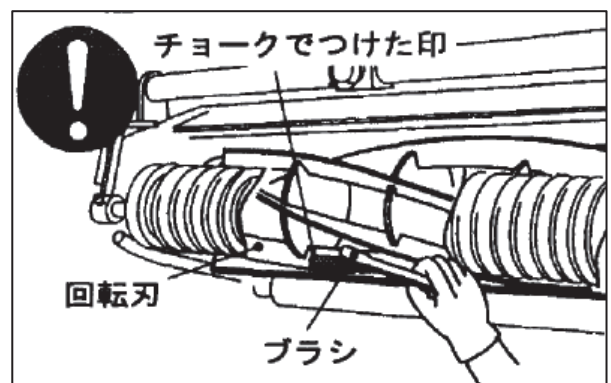
- 切れ味の確認のためにブレード1枚、1枚について、回転刃の全巾にわたってこのテストを行いません。



- (5) 再度エンジンをかけ、モアを下降させ、エンジンを停止してください。
- (6) ラッピングマシンをセットしてください。



- (7) ブラシに研磨剤をつけ、上記(4)項で印をつけたところの回転刃の上面に均一に塗布してください。
- 切れる部分に研磨剤の塗布をするのは、切れる部分が高く、切れない部分が減ってしまって低くなっているため、高い部分の刃を磨り落とし、下刃に対して回転刃の高さを均一にするためです。（切れ味の悪い箇所には絶対に研磨剤を塗らないでください。）
 - 研磨剤はラッピングコンパウンド（＃120～＃180）とオイル（または中性洗剤）を1：3～4の割合で混合したものを使用してください。



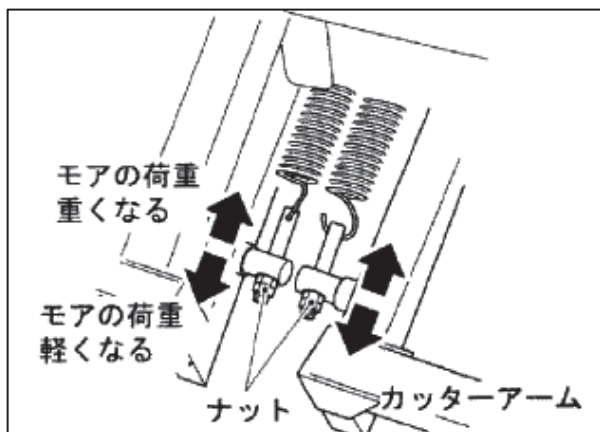
8章 モアの取り扱い

- (8) ラッピングマシンのスイッチを入れ、回転刃を刈込時と逆方向に回転させてください。
- (9) しばらく研磨して接触音がしなくなったら回転を止めます。
- (10) 段階的に研磨剤を塗る箇所を切れなかった（(4)で印をつけなかった）箇所に広げて研磨作業を繰り返します。
- (11) 均一に回転刃を研磨したら研磨剤を回転刃に均一に塗布して約1分間仕上げ研磨をしてください。
- (12) 仕上げ研磨が終了したらラッピングマシンを外し、回転刃と下刃を水でよく洗い流し研磨剤を取り除いてください。
- (13) 切れ味をテストしながら回転刃と下刃の間隔を調整してください。（P37切れ味調整参照）
- (14) ベルトのテンションスプリングをフックにかけ、ベルトを張ります。

5. モア接地荷重の調整

（ウエイトコントロール）

- カッターアームに付いているスプリングを調整することによってモアの接地荷重を調整することができます。
- ナットを締め込むと軽くなり、緩めると重くなります。刈り跡に段差ができる時や、登坂力を増したい時、追従性を良くしたい時等それぞれ調整してください。



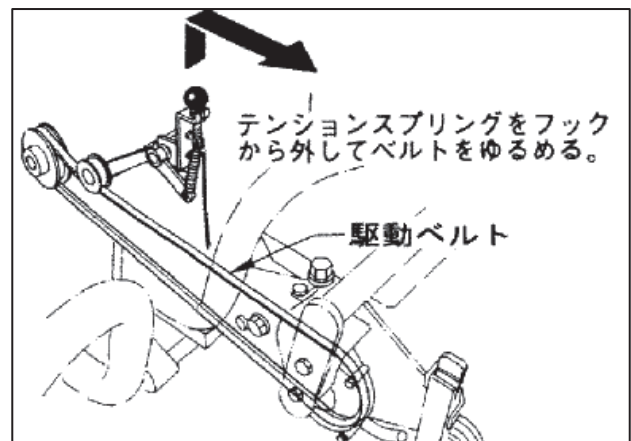
6. ベルトの調整



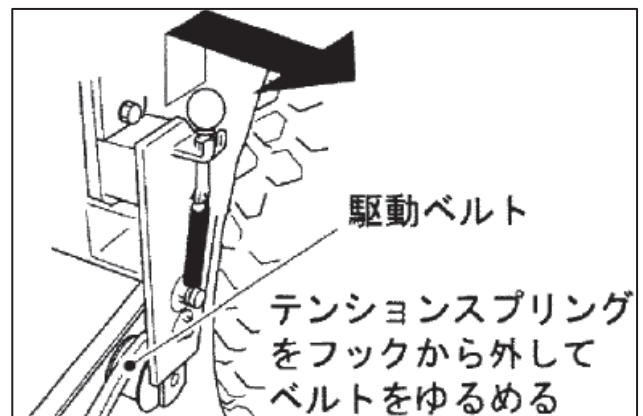
警告

- 本機を平坦な場所におき、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて調整を行ってください。
 - 誤作動を防止するため必ずスターターキーを抜いてください。
 - 芝屑などの堆積物がベルトに付着している場合は、歯ブラシなどベルトに傷をつけないもので落としてください。
 - ベルトに損傷、破損がある場合は交換してください。
- (1) モアを地表に降ろします。
 - (2) 駆動ベルトを指で押し、張り具合を確認してください。
 - (3) 極端に緩んでいる場合は、カッター駆動用ベルトテンションスプリングをフックから外します。
 - (4) 調整用ナットを時計方向に回し、スプリングをフックに戻します。
 - (5) 再度、駆動ベルトを指で押し、張り具合を確認してください。

（フロント）



（リヤ）



9章 定期の点検・整備のしかた



警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく車両が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、駐車ブレーキを掛け、車止めをしてから行なってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。



注意

- 半年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプは2年毎に交換してください。守らないと整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて傷害事故をおこすおそれがあります。

点検・整備を毎日行なうことにより、機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行なえます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、半年毎に販売店で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプなどの、ゴム類や電気配線は2年毎に交換するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行なえるようにしてください。

9章 定期の点検・整備のしかた

1. 定期点検一覧表

○ 点検 ● 交換

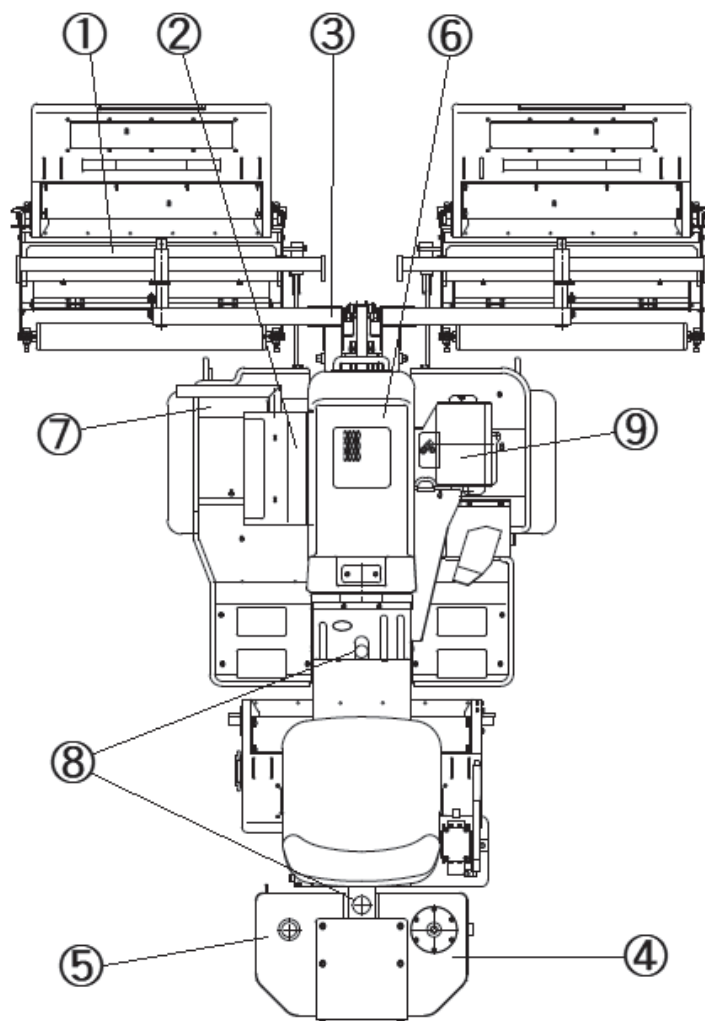
アワメータ表示時間 実施項目	50 時間目	100 時間目	150 時間目	200 時間目	250 時間目	300 時間目	350 時間目	400 時間目	450 時間目	500 時間目	550 時間目	600 時間目	参 照 ページ
エンジンオイル	最初の8時間経過後、8時間ごとまたは毎日点検												44
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
HSTオイル	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	45
エンジンオイルフィルタ	●		●		●		●		●		●		46
HSTオイルフィルタ	●						●						47
サクシヨンストレーナ						●						●	47
燃料フィルタ (エレメント)	100時間毎に洗浄、600時間毎に交換												47
		洗浄		洗浄		洗浄		洗浄		洗浄		●	
エアクリーナ (エレメント)	洗浄	●	洗浄	●	洗浄	●	洗浄	●	洗浄	●	洗浄	●	48
点火プラグ	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	48
バッテリー液	25時間毎に点検												49
グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50
Vベルト	○	○	○	調整	○	○	○	調整	○	○	○	調整	51
タイヤ空気圧	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	51
タイヤホイール締付トルク	○				○				○				51

2. 燃料・オイル・グリスについて

燃 料 (F)	無鉛ガソリン
エンジンオイル (E. O.)	10W-30 (API分類SF、SG、SH、SJ級以上)
油圧オイル (H. O.)	シバウラHSTオイル
グリス (C. G.)	万能グリスNo2
バッテリー液 (D. W.)	蒸留水

9章 定期の点検・整備のしかた

3. 給油・給水一覧表



	給油 メンテナンス 項目	給 油 の 種 類	給 油 量 (L)	点 検 給 油 時 間	交 換 時 間	サ ー ビ ス 個 所
1	作業機（リール）	C.G.		50		24
2	クラッチ系	C.G.		50		1
3	リフトアーム関係	C.G.		50		9
4	オイルタンク	G.O.	20	50	300	1
5	燃料タンク	F.	20	始動前		1
6	エンジンオイル	E.O.	1.6	8	50	1
7	シリンダー部	C.G.		50		1
8	ステアリング系	C.G.		50		5
9	バッテリー	D.W.		25		1

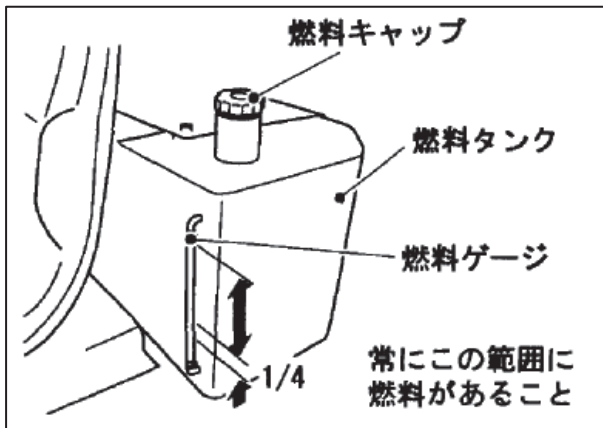
注) 上記以外の各種ピン・リンク等へも適時注油してください。

4. 燃料の点検・給油のしかた

! 危険

- 燃料補給は、くわえ煙草や裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に給油しないでください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。

(1)燃料ゲージで残量を点検して、燃料の液面が下から1/4以下にある場合は燃料キャップを外し、給油口より補給してください。



〔取り扱いの注意〕

- タンク内の燃料が少ないと、斜面走行時に燃料切れをおこす可能性があります。早めに給油してください。

5. 各部のオイルの点検・交換のしかた

! 危険

- エンジン回転中やエンジンが熱いときは、絶対に注油しないでください。守らないと火災を起こしたり、ヤケドをするおそれがあります。

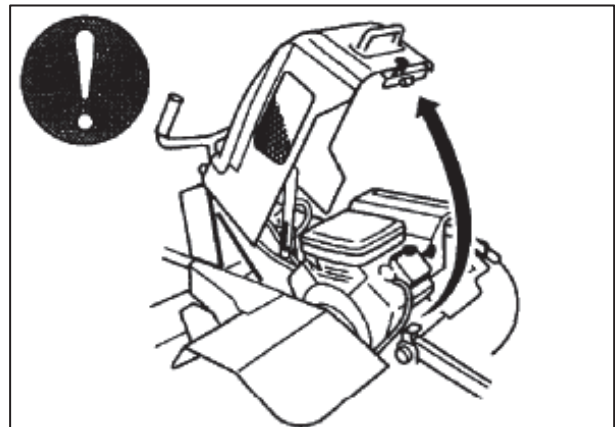
! 危険

- エンジン停止直後のオイル交換はしないでください。守らないと火災を起こしたり、ヤケドをするおそれがあります。

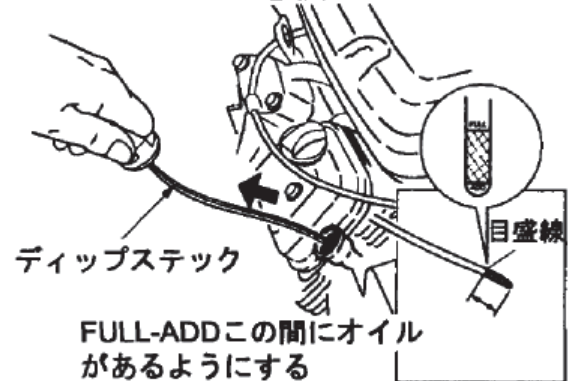
①エンジンオイル

〈点検〉

検油ゲージを抜いて先端をきれいに拭いてから差込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。



オイル量と汚れを点検すること

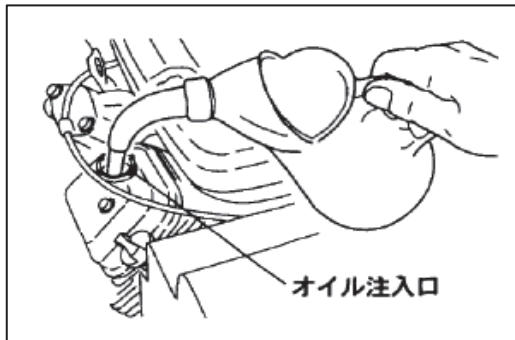
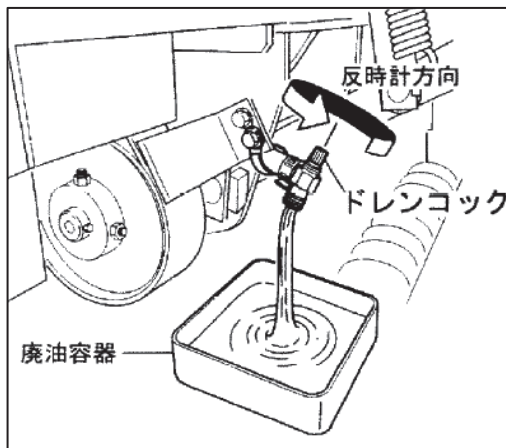


〔取り扱いの注意〕

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。
- オイルの量を点検するときは水平な所に止め水平な状態で点検してください。
- 交換した排油は、絶対に川や下水道に流したりせず、専門業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

〈交換〉

エンジンがまだ暖かい内にオイルを抜き取ります。エンジン後方下部のドレンプラグより排出してください。完全にオイルが排出されたらドレンプラグを締め、新しいオイルを給油口から入れてください。



エンジンオイル交換は、最初は8時間、2回目以降は50時間毎かシーズン毎に交換してください。

! 注意

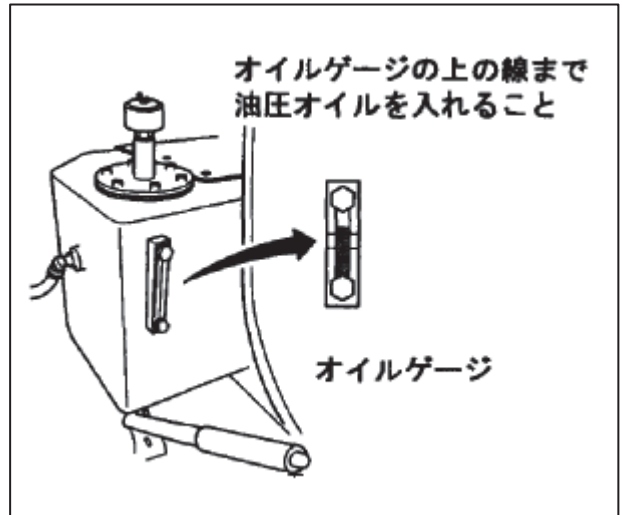
- エンジンオイルはAPI分類SF、SG、SH、SJ級以上の10W-30あるいは、同等品のオイルをお使いください。守らないとエンジン故障の要因になります。

②HSTオイル（走行、昇降用）

HST オイルは 300 時間毎に交換してください。

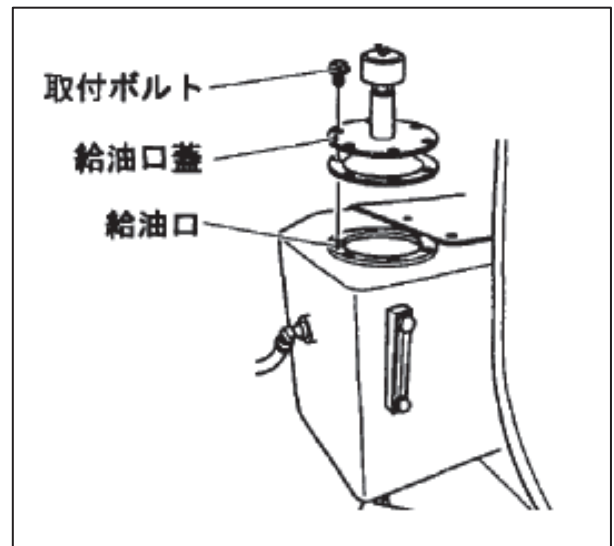
〈点検〉

作業機を下降させて油圧タンクのオイルゲージの油面を確認し、液面が上の線より下にある場合は給油口より規定量まで入れてください。



給油口の外し方

オイルタンク給油口の周囲を繊維の残らないきれいな布で拭き取り、取付ボルトをスパナ等でゆるめ取り外してください。



〈交換〉

油圧オイルタンク下部のドレンプラグより排出してください。オイルを抜くときは、オイルが暖かいうちに抜くときれいに抜けます。（熱いオイルに注意してください。）

完全にオイルが排出されたらドレンプラグを締め、新しいオイルを給油口から入れてください。

9章 定期の点検・整備のしかた

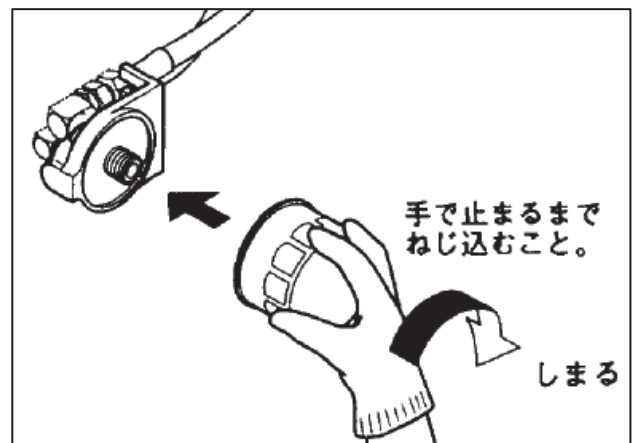
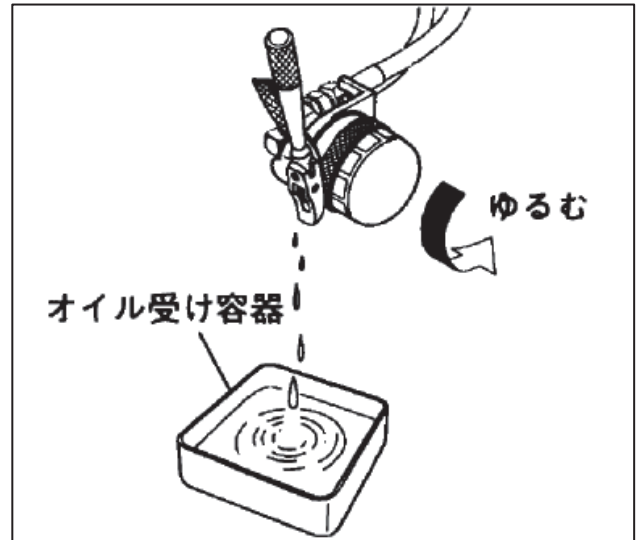
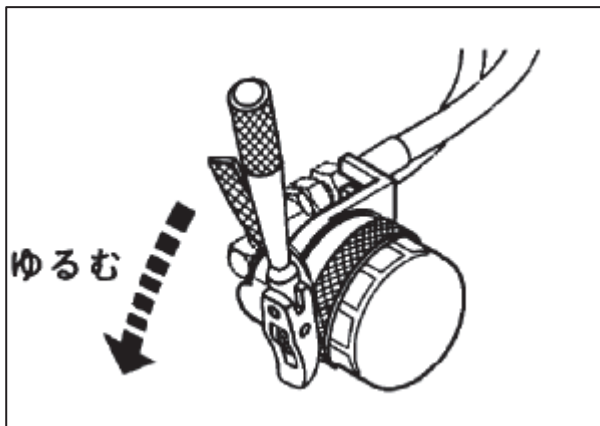
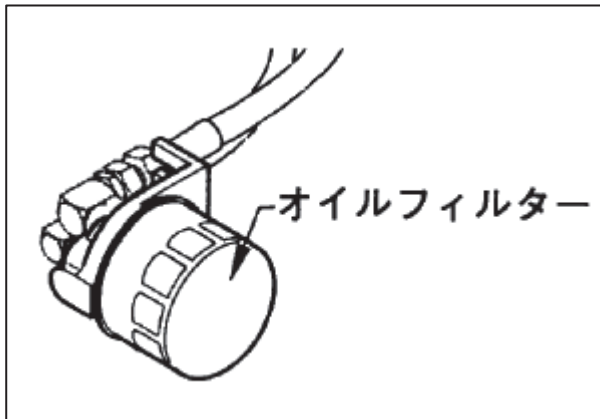
6. 各部エレメントの交換のしかた

①エンジンオイルフィルタ

フィルタはカートリッジタイプになっています。最初は50時間、2回目以降は100時間毎に交換してください。

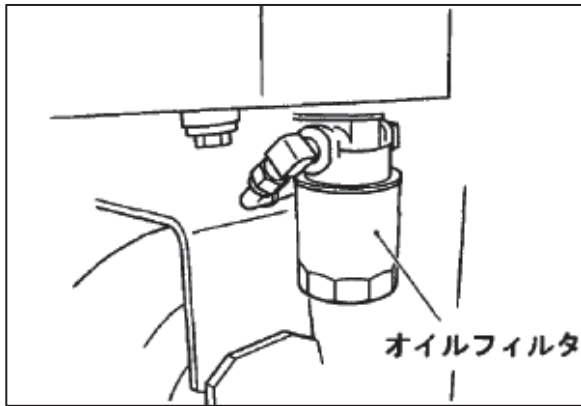
〈交換〉

- (1) オイルフィルタに付着した汚れを抜き取り、フィルタレンチでオイルフィルタを回して外します。
- (2) 新しいフィルタ底面にあるガスケットに新しいオイルを薄くぬります。
- (3) ガスケットがフィルタアダプタに触れるまで手でねじ込みます。さらに1/2~3/4回転手で回して締めます。
- (4) エンジンオイルを交換後、エンジンを始動しアイドリングで運転させてオイルもれがないか調べます。
- (5) エンジンを停止して、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば補給します。



②HSTオイルフィルタ

オイルフィルタはカートリッジタイプになっています。最初は 50 時間、2 回目以降は 300 時間毎に交換してください。

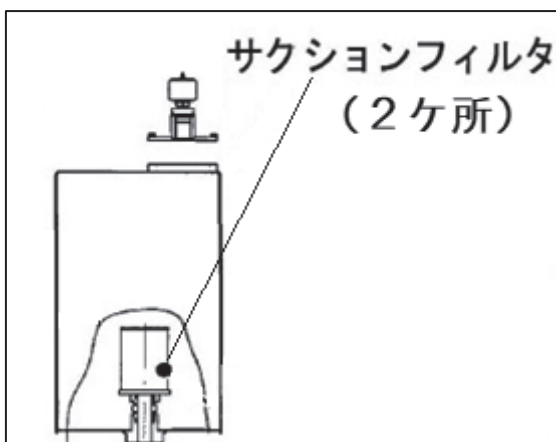


〈交換〉

- (1) オイルフィルタに付着した汚れを抜き取り、フィルタレンチでオイルフィルタを回して外します。
- (2) 新しいフィルタ底面にあるガスケットに新しいHSTオイルを薄くぬります。
- (3) ガスケットがフィルタアダプタに触れるまで手でねじ込みます。さらに 1/2~3/4 回転手で回して締めます。
- (3) フィルタ交換後、エンジンをアイドリングにして レベルゲージの油面を点検し、不足している場合はHSTオイルを補給してください。

③サククションストレーナ

サククションストレーナの交換は、油圧タンクのオイル交換時に一緒に行ってください。



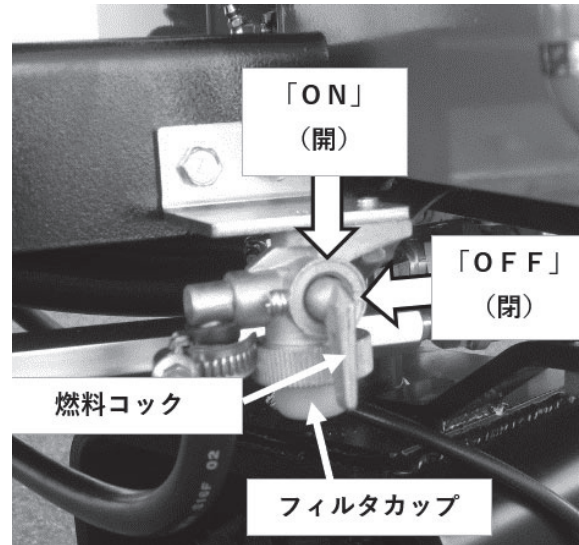
オイルタンク上部のふたを外しオイルタンク内のサククションストレーナを外して交換してください。

④燃料フィルタ

フィルタカップは 100 時間毎に洗浄してください。

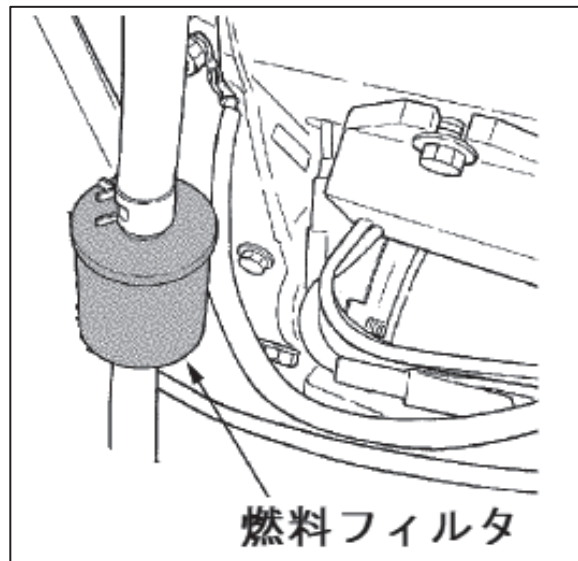
〈洗浄〉

- (1) 燃料コックを [OFF] (閉) 位置にします。
- (2) フィルタカップを外し、フィルタカップ内の水、ゴミを取り除きます。
- (3) フィルタの洗浄が終わったら元通りに取付け燃料コックを [ON] (開) 位置にします。



⑤メイン燃料フィルタ (インラインフィルタ)

メイン燃料フィルタは 100 時間毎に洗浄、600 時間毎に交換してください。



9章 定期の点検・整備のしかた

〈燃料フィルタの交換方法〉

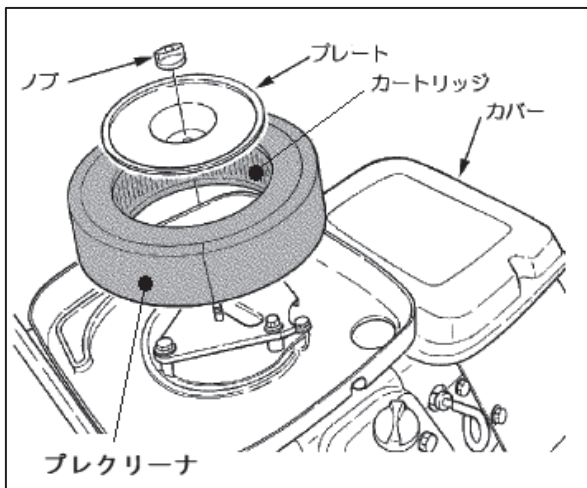
- (1) 燃料コックを [OFF] (閉) 位置にします。
- (2) 燃料フィルタを取外します。
注意：燃料フィルタを洗浄して再利用することはできません。必ず新品に交換してください。
- (3) 新しい燃料フィルタを取付けます。
注意：ホースに傷をつけないでください。
- (4) 燃料コックを [ON] (開) 位置にします。

〈燃料タンク水抜き〉のしかた

- (1) 燃料タンク下部のドレンプラグより水および燃料を抜きます。
- (2) 水抜きが終わったらドレンプラグを元の状態に戻して閉めます。

7. エアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナは吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダ、ピストンリングの摩擦を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。



プレクリーナは25時間毎に清掃してください。カートリッジは100時間毎かシーズン毎のどちらか早い時期に交換してください。ホコリの多い所で作業するときは、もう少し短い間隔で清掃・交換してください。

〈エアクリーナエレメントの掃除のしかた〉

- (1) ボンネットを開けてください。
- (2) クリップを外し、カバーを取り外します。

- (3) プレクリーナをカートリッジから外します。
カートリッジを外すとき、塵がキャブレター内に入らないように注意してください。
- (4) プレクリーナは家庭用中性洗剤を使って、水洗いした後、清潔な布で押して乾かします。
- (5) カートリッジを点検し、破損や汚れがある場合は交換します。

注) カートリッジの清掃は軽くたたきながら埃を落としてください。カートリッジには高圧空気を吹き付けたり、オイルを染み込ませたりしないでください。

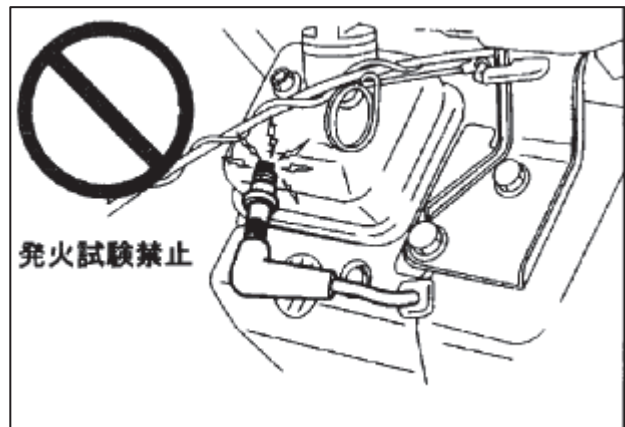
- (6) プレクリーナをカートリッジに装着します。
- (7) カートリッジを元の状態に取付け、ノブで固定します。
- (8) カバーを装着し、クリップで固定します。

8. 点火プラグの点検・交換のしかた



危険

- 点火プラグの点検・交換時は火気厳禁です。守らないと、引火し爆発してヤケドを負うおそれがあります。
- コネクターに直結した点火プラグの発火試験は行わないでください。守らないと、引火し爆発してヤケドを負うおそれがあります。



点火プラグは100時間毎かシーズン毎のどちらか早い時期に交換してください。又、電極の焼付や磁器部分のひび割れがある場合は速やかに交換してください。

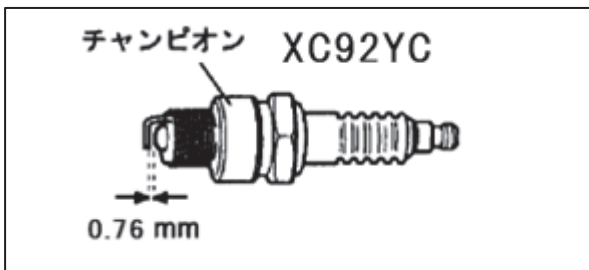
- (1) エンジン停止後15分以上待ちエンジンを冷却します。
- (2) 点火プラグコネクターを手前に引き外してください。

9章 定期の点検・整備のしかた

- (3) プラグ回しを点火プラグに差し込み、反時計方向に回しプラグを取り外してください。
- (4) 点火プラグに付着したカーボン（スス）をブラシで落とし、有機溶剤で洗浄してください。
- 注) 点火プラグにはブラストクリーナーは使用しないでください。



- (5) スキマゲージを使用し、電極のスキマを調整します。(スキマ; 0.76mm)



- (6) 元の位置に点火プラグを取り付け、プラグ回しで締め（締付トルク20Nm）、点火プラグコネクターを止まるまで差し込んでください。

9. バッテリーの点検のしかた

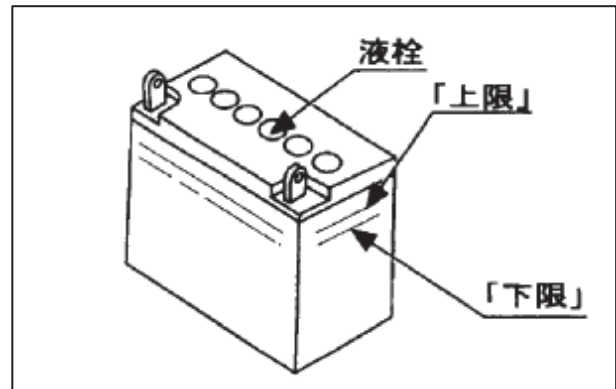
⚠ 危険

- バッテリーの点検時、充電時は火気厳禁です。守らないと、引火し爆発してヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリー液を身体や眼につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。守らないと、服が破れたり、ヤケドを負うおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリーの取り付けは、(+) 側を先に取り付けてください。取り外すときは、(-) 側から取り外してください。守らないとショートしてヤケドを負うおそれがあります。

バッテリーカバーの点検口から、バッテリーの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限のラインまで補給してください。



[取扱いの注意]

- バッテリー各槽に液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、金属部を腐食させます。
- 急速充電は避けてください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱い説明書の指定した容量のバッテリーを使用してください。
- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり・捨てたりしないでください。必ず、バッテリーを購入した販売店に渡してください。資源としてリサイクルされます。

10. パイプ類の点検について

⚠ 危険

- 燃料パイプ、油圧ホースなどが傷んで燃料漏れや油漏れがないか、また締付バンドがゆるんでいないか調べてください。傷んでいなくても2年毎に交換してください。

11. 電気配線の点検について

⚠ 警告

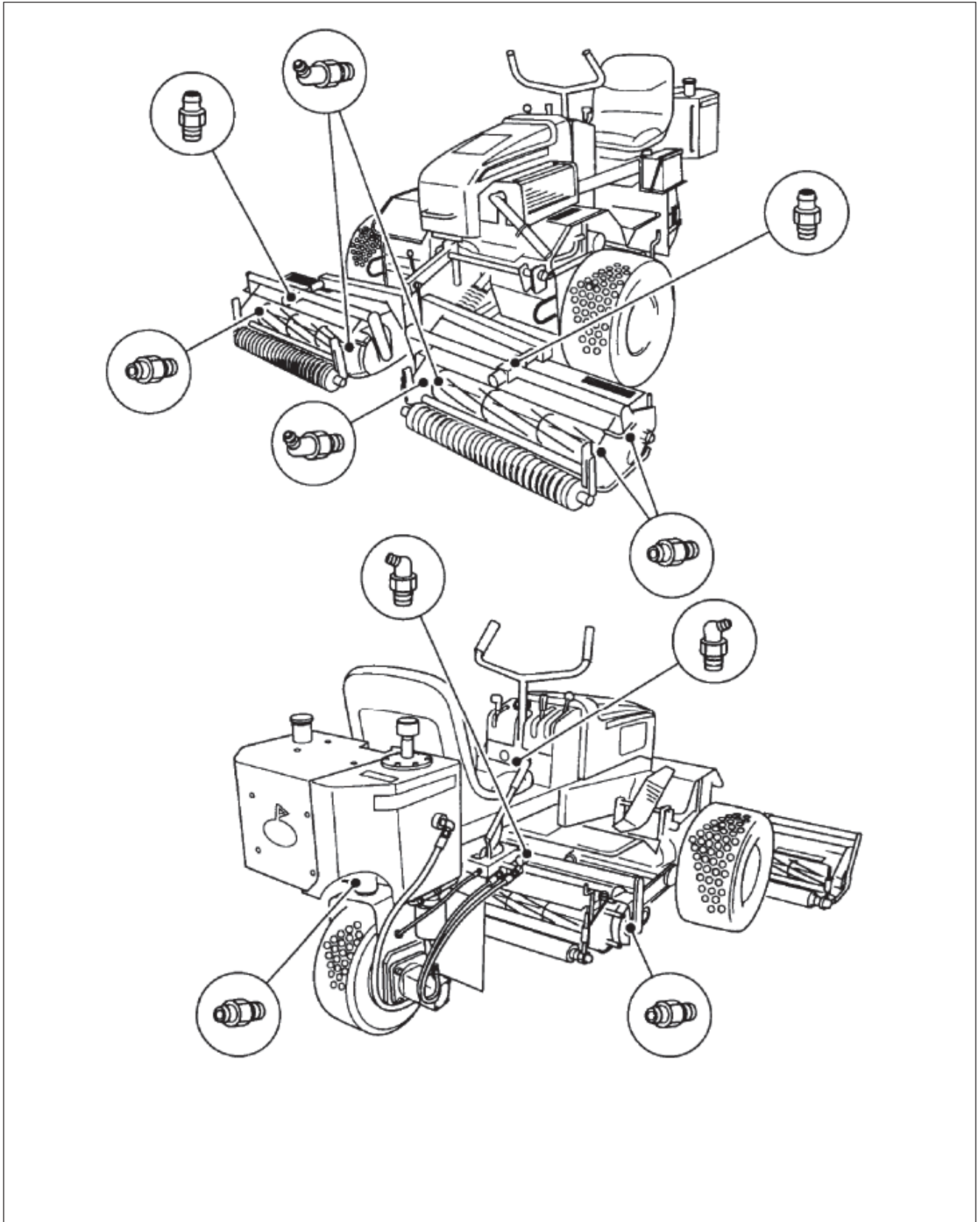
- 配線コードが他の部品に接触していないか、被覆はがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。
- バッテリーや配線に付着している草やゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。守らないと、ショートして火災をおこすおそれがあります。

9章 定期の点検・整備のしかた

12. グリスアップ（注油）について

- グリスアップは50時間毎に点検していただきますが、作業に入る前に各箇所のグリスの点検を行ない、必要ならばグリスアップしてください。

グリスアップ後、余分なグリスは布等できれいに拭き取ってください。



9章 定期の点検・整備のしかた

13. ベルトの点検・調整について



注意

- 必ずエンジンを停止してください。
- エンジンが十分に冷えた状態で行なってください。守らないとヤケドを負うおそれがあります。

ベルトのたわみ、破損・損傷していないか調べてください。

たわみが適正でないときはベルトの張りを調節してください。調整してもベルトがスリップするようでしたら新しいベルトと交換してください。

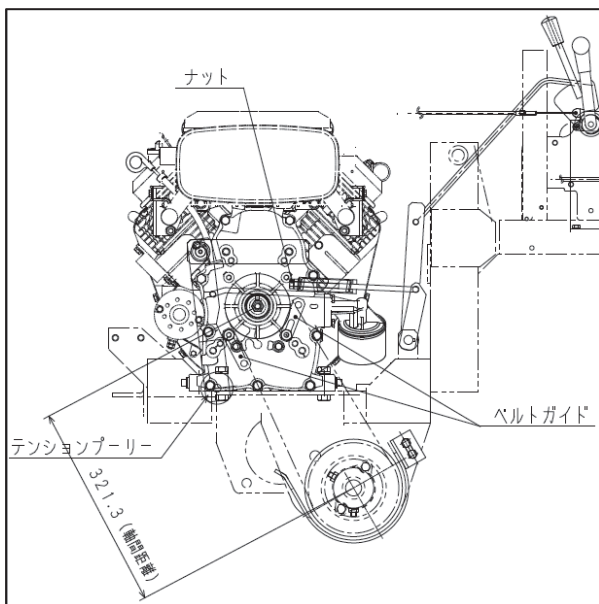
仕様・号機によってVベルトのサイズが異なります。部品表を確認し適切なサイズのVベルトと交換してください。

(点検箇所)

- ① エンジンプーリー／中間プーリー
- ② 中間プーリー／フロントユニット (右)
- ③ 中間プーリー／フロントユニット (左)
- ④ 中間プーリー／リヤユニット

(調整方法)

- ① 下図ナットにて張りを調整できます。ベルトガイドにてベルトが連れ回りしないように調整してください。

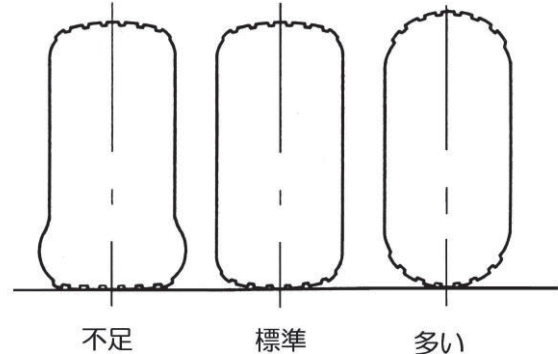


② ③ ④ はP40を参照してください。

14. タイヤの点検について

①タイヤの点検

前後輪のタイヤの空気が適正であるか調べます。外観から判断する目安は次の通りです。



標準空気圧

	タイヤサイズ	空気圧 KPa (kgf/cm ²)
前輪	20x10.00-8-4PR	78 (0.8)
後輪	16x650-8-2PR	98 (1.0)

またタイヤの損傷や亀裂がないか点検してください。

②車輪の取付けボルトの点検

各車輪の取付けボルトのゆるみを確認してください。ゆるみがあるときは下表に従い、増し締めしてください。

	締めトルク Nm (kgf・cm)
前輪	50±5.9 (500±60)
後輪	50±5.9 (500±60)

15. ブレーキの点検・調整について



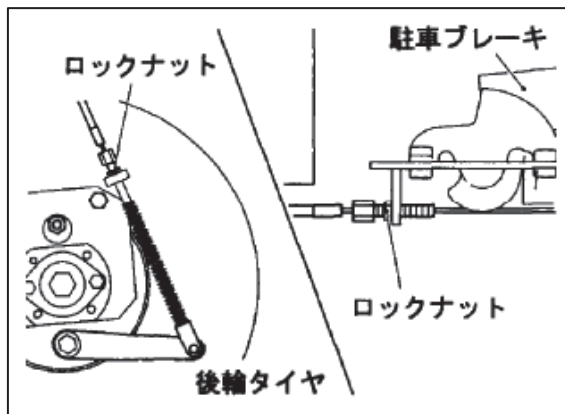
警告

- ブレーキの効きが悪かったり、片効きになっていないか点検してください。守らないと事故を起こすおそれがあります。

(ハンドブレーキタイプの場合：AB仕様以外)

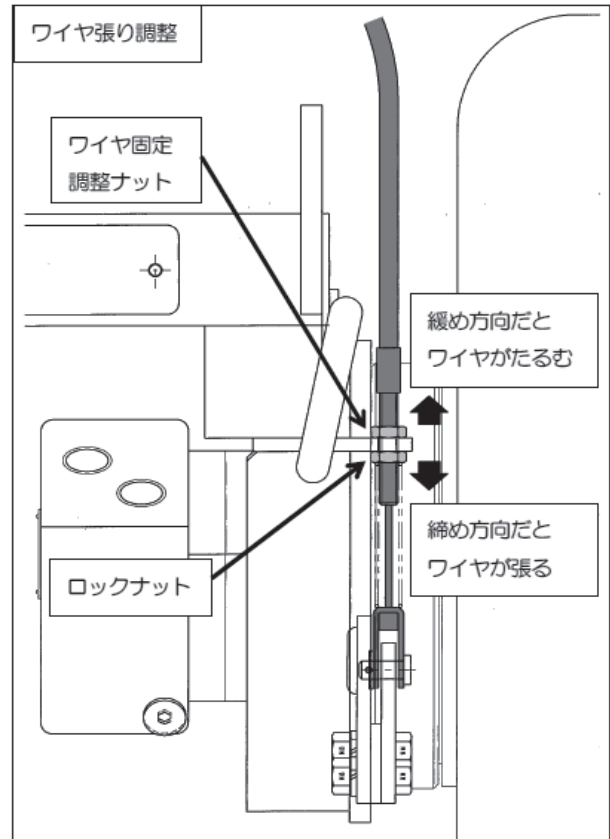
- (1)ロックナットをゆるめ、ワイヤー調整金具で調整します。
- (2)ブレーキレバーを3ノッチから5ノッチの範囲で調整してください。

調整後は必ずロックナットで固定してください。



(AB仕様の場合)

ブレーキペダルを踏み込んだ時、3ノッチ程度でブレーキペダルが固定されるように調整してください。この際、左右のブレーキが同時に効くことを確認してください。



- (1) ロックナットをゆるめてください。
- (2) 調整ナットにてワイヤの張りを調整してください。
- (3) ロックナットを締めてワイヤを固定してください。
- (4) ブレーキペダルを踏み込み、張りを確認してください。
- (5) 左右を同じように調整してください。
- (6) 駐車ブレーキレバーが確実に機能することを確認してください。

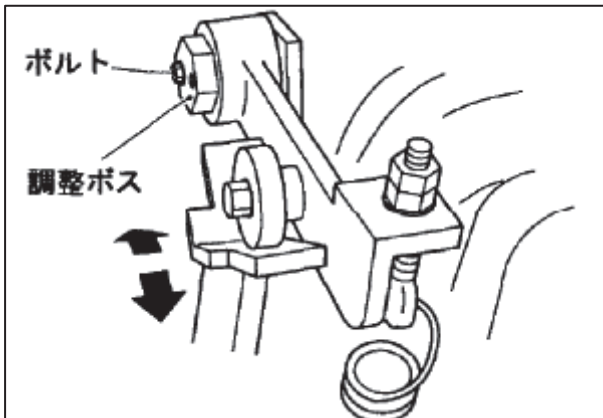


16. HST中立調整について

●作業中は回転物に巻き込まれないように注意してください。

走行ペダルを戻しても本機が動いてしまうときはHSTの中立調整を調整してください。

- (1) バッテリーを一旦取り外し、カバーを外してHSTが見える状態にします。
- (2) バッテリーを取り付けます。
- (3) ジャッキ等で前輪を浮かした状態にします。
- (4) 2輪駆動に切り替えます。
- (5) エンジンをかけます。
- (6) 下図のボルトをゆるめ、調整ボスを回し中立を調整します。



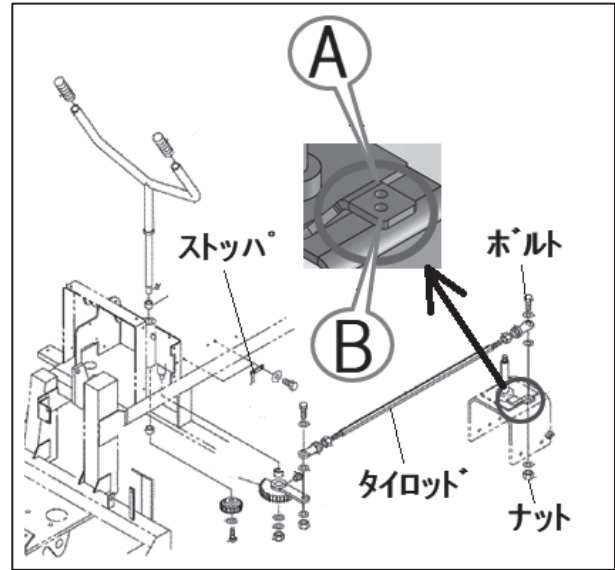
- (7) 中立が出たところで調整ボスが回らないようにスパナ等で押さえながらボルトを締め固定してください。
- (8) エンジンを停止し、ジャッキ等を外したらカバーを元の状態に戻してください。

17. 旋回性能の調整について

リヤフォーク部のロッド取り付け位置を変更することにより、旋回性能を変更することができます。

旋回半径が小さくなるとハンドル操作力は重くなります。

工場出荷時は「B」の位置にセットされております。



取付位置	旋回半径	操作力
A	小	重
B	大	軽

●ボルト類の締付は確実に行ってください。

- (1) 本機をジャッキアップして後輪タイヤを持ち上げます。
- (2) タイロッドを固定しているボルトとナットを取り外します。
- (3) 上の表を参考にして、「A」又は「B」の穴にタイロッドを取り付けます。
- (4) ハンドルの向きがまっすぐである時にリヤフォークもまっすぐとなるようにタイロッドの長さを調整します。
- (5) 必要に応じてストッパーの位置を調整します。

10章 不調診断のしかた



警告

●もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

1. エンジン関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
キースイッチを回してもスタータが回らない。	セイフティスイッチが効いていませんか。(AB仕様のみ)	ブレーキペダルを踏み込むかパーキングブレーキをかけた状態でキースイッチを回してください。
	バッテリー液は規定量入っていますかまたは、放電していませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電してください。
	バッテリー端子部がゆるんでいたり、腐食したりしていませんか。	端子部を清掃し確実に締め付けて、グリスを塗布して防錆してください。
	スイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理または交換してください。
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場で修理または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	ガソリンを補給してください。
	燃料フィルタが目詰まりしていませんか。	洗浄または交換してください。
	燃料コックが(閉)位置になっていませんか。	燃料コックを(開)位置にしてください。
	燃料カットソレノイドは動いていますか。	電気配線を確認します。 修理または交換してください。
	点火プラグから強い火花が出ていますか。	点火プラグを清掃または交換します。 電極間隔を0.76mmに調整します。
	電気は通電していますか。	電気配線を確認します。
エンジンが不規則に回転する。	燃料フィルタが目詰まりしていませんか。	洗浄または交換してください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい燃料と交換してください。
	エアークリーナーが目詰まりしていませんか。	エアークリーナーを点検、清掃、交換してください。
	キャブレターの調整は適切ですか。	サービス工場で修理または交換してください。 注) キャブレター交換後は必ず回転数及びガバナ調整が必要です。
	ガバナの調整は適切ですか。	サービス工場で修理または交換してください。
	ガバナのスプリングは適切ですか。	標準品に交換してください。
	点火プラグは適切ですか。	標準品に交換してください。

10章 不調診断のしかた

エンジンの回転が上がらない	エアークリーナーが目詰まりしていませんか。	エアークリーナーを清掃または交換してください。
	アクセルワイヤーが適切に動作していますか。	ワイヤーの調整または交換してください。
	チョークがさいたままになっていませんか。	チョークを戻します。
	排気に圧力がかかっていませんか。	排気口、マフラーを清掃してください。
	燃料フィルタが目詰まりしていませんか。	洗浄または交換してください。
	点火プラグから強い火花が出ていますか。	点火プラグを清掃、または交換します。電極間隔を0.76mmに調整します。
	エンジンが過熱していませんか。性能を超えた作業をしていませんか。	適切な作業量に減らしてください。過負荷の原因を取り除いてください。(刃合わせがキツイ、ゴミ詰まり等)
燃料消費が多い (黒煙がでる)	エアークリーナーが目詰まりしていませんか。	エアークリーナーを点検、清掃、交換してください。
	燃料に不純物の混入や劣化はありませんか。	新しいきれいな燃料に交換してください。
燃料消費が多い (白煙がでる)	エンジンオイルの量が多くありませんか。	オイルを規定量にしてください。
スターターモータが回りっぱなしになる	マグネットスイッチが故障していませんか。	バッテリーの(-)ケーブルを外した後、スイッチを交換してください。
エンジンが止まらない	アースの状態が悪くありませんか	アース線を確実に本体に締め付けてください

2. ブレーキ関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
ブレーキの効きが悪い、または片効きする。	ブレーキの遊び量は適正ですか。	ブレーキワイヤーを調整してください。
	ブレーキドラム内にオイルが付着していませんか。	清掃してください。 油圧モータの点検、シール交換をしてください。(3駆仕様のみ)
ブレーキペダルの戻りが悪い、またブレーキが鳴く。	ブレーキワイヤーは正常に作動していますか。	ブレーキワイヤーを調整または交換してください。
	各摺動部のグリスが切れていませんか。	サビを落としグリスアップをしてください。

10章 不調診断のしかた

3. 油圧関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
作業機が上がらない。	HSTオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みはありませんか。	オイルフィルタや取付け部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰まりしていませんか。	オイルフィルタを交換してください。
	油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	コントロールバルブにゴミがかんていませんか。	サービス工場で修理してください。
	またはOリングは破損していませんか。	
	シリンダ又はブラケットが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
	昇降レバーがオーバーストロックしていませんか。	昇降レバーが適切に動くようにストッパー位置を調整します。
	リリーフバルブは正常に動作していますか。	サービス工場で修理してください。
作業機が下がらない	コントロールバルブにゴミが詰まっていますか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
作業機が勝手に下がってしまう	チェックバルブにゴミが詰まっていますか。	サービス工場で修理してください。

4. 電装関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
アワメーターが動作しない。	配線の接続が悪くありませんか	点検し、確実に接続してください
	メーターが故障していませんか	メーターを交換してください

5. 作業機関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
ブレードが回転しない。	Vベルトが伸びていませんか。	Vベルトの調整または交換してください。
	刃合わせがきつすぎませんか。	刃合わせを調整してください。
	ユニット内に芝・草・ゴミが詰まっていますか。	芝・草・ゴミを取り除いてください。
	プーリーが空転していませんか。	点検、修理してください。
刈高さが合わない。	フロント・リヤローラが破損していませんか。	ローラの交換、またはベアリング等を交換してください。
	回転刃・下刃が摩耗・破損していませんか。	ブレードを研磨、または交換してください。

刈高さが合わない。	ユニットのフレームが歪んでいませんか。	定盤の上でユニットを組み直してください。
きれいに刈れない。	ブレードが摩耗・破損していませんか。	ブレードを研磨、または交換してください。
	フロント・リヤローラの位置は合っていますか。	ローラの高さ調整をしてください。

11章 その他

1. 主な消耗部品

エンジン関係

部品コード	名称	個数/台	備考
T07200112	カートリッジ：394018S	1	エアクリーナ
T07200070	プレクリーナー：272490S	1	エアクリーナ
A10920628	オイルフィルタ：842921	1	エンジンオイル
A10921443	燃料フィルタ：845125	1	燃料
A10920765	スパークプラグ：792015	1	XC92YC (CHAMPION)
T07200227	ソレノイド：692094	1	燃料カット
A10921525	スターターモータ：844717	1	

油圧関係

部品コード	名称	個数/台	備考
A52360020	サクシヨンストレナ	2	オイルタンク内
A40620020	オイルフィルタHST	1	
A21890002	シバウラHSTオイル	1	20L 缶

モア関係

部品コード	名称	個数/台	備考
A70150551	カイテンバ(7枚刃)	2	1, 2番用
A70150611	カイテンバ(4枚刃)	2	1, 2番用
A70150581	カイテンバ(7枚刃)	1	3番用
A70150641	カイテンバ(4枚刃)	1	3番用
A70430151	シタバ	3	
A99480040	サラビス	27	
A70440020	シバヨケ	3	
A98560210	ピローブロック	6	
080520041	Vベルト；SB41	2	#30077以降
080320062	Vベルト；B-62	2	#30077以降
080320040	Vベルト；B-40	1	#30077以降

※「Vベルト」について該当号機以外は部品表にてご確認ください。

2. 標準付属品

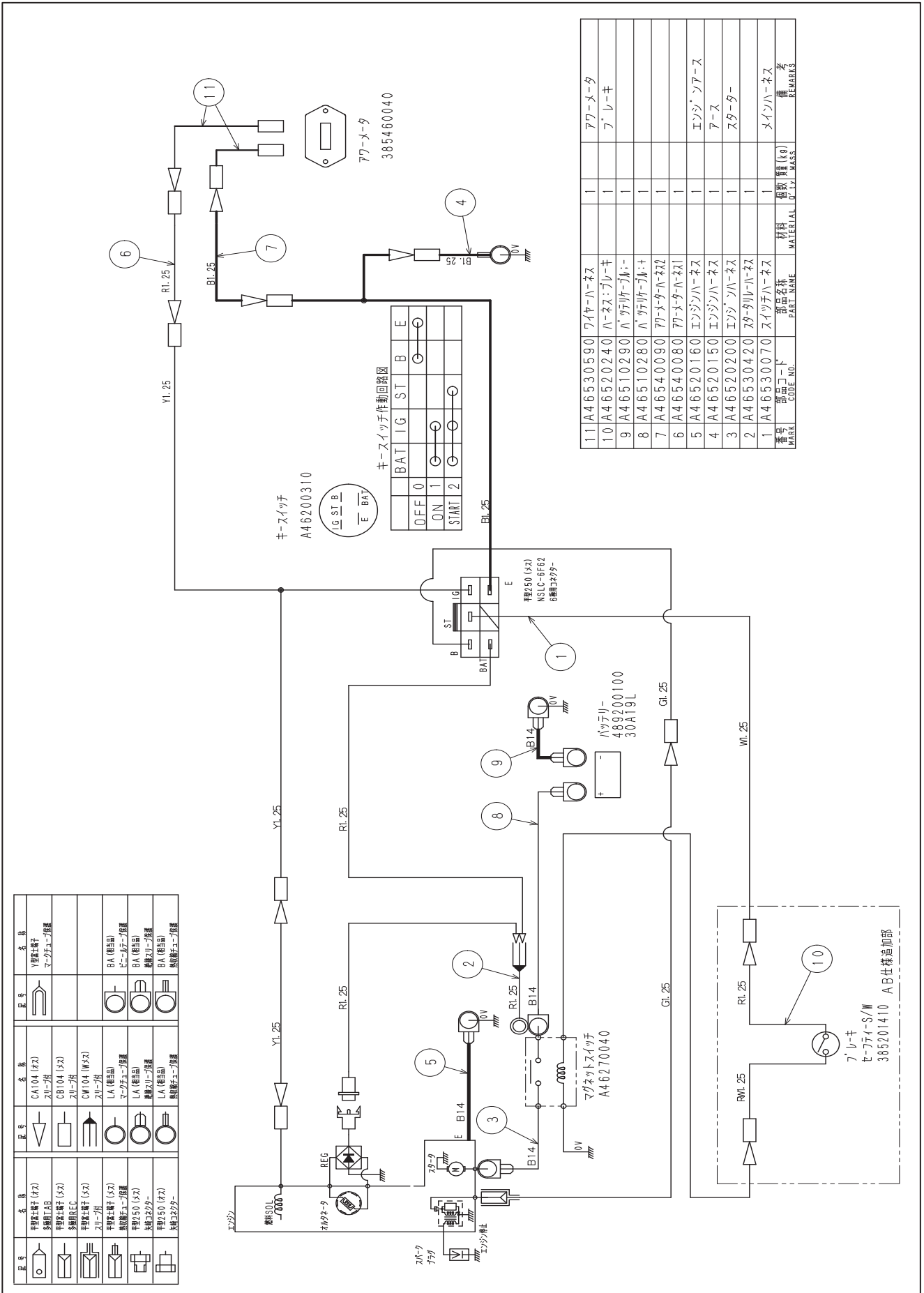
部品コード	名称	個数/台	備考
A95680040	ツールバッグ	1	
A95520010	刃合わせ工具	1	
A95510050	刈り高ゲージ	1	
A00810274	取扱説明書	1	

11章 その他

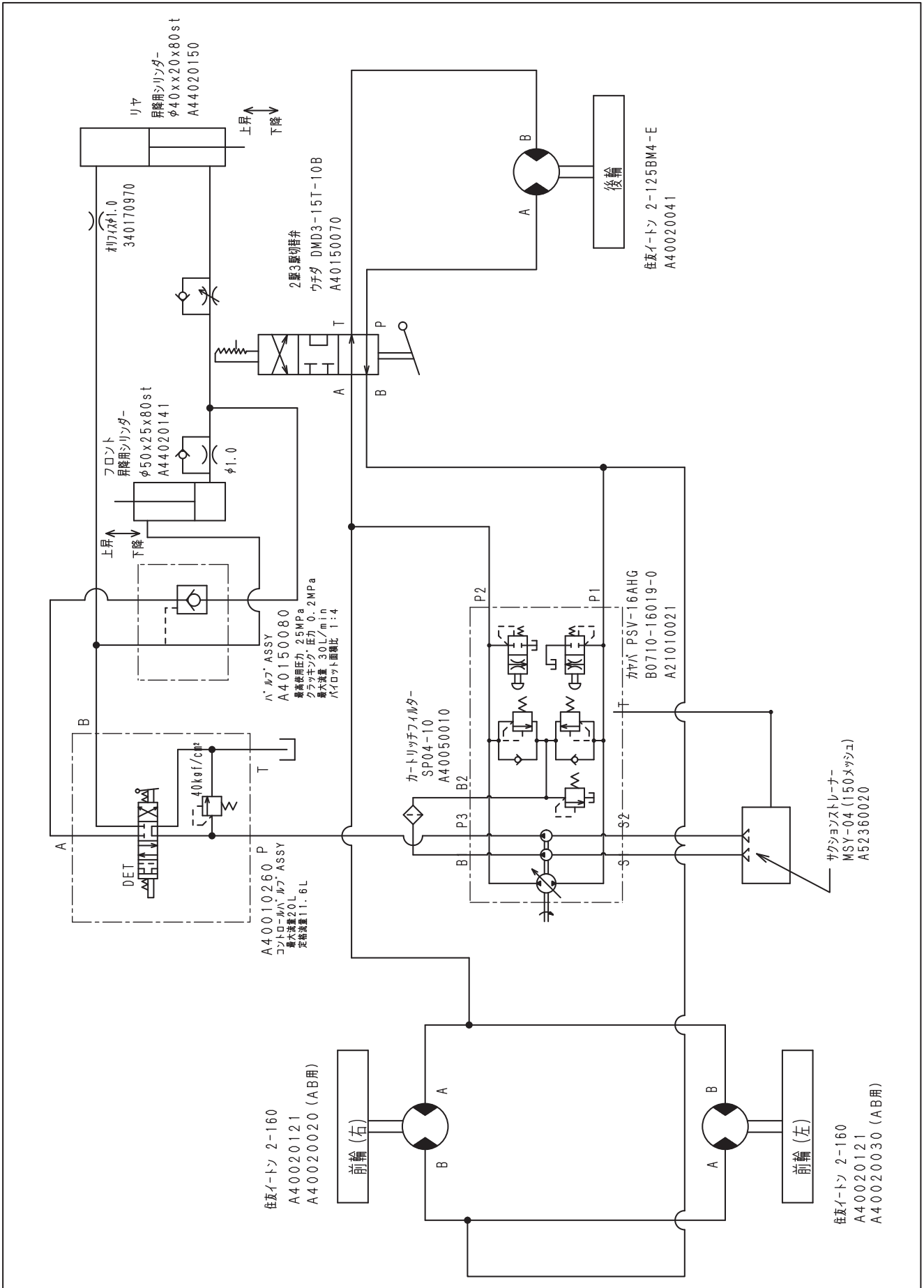
3. 仕様

		モデル			
		単位	AM201A	AM301A	AM301AB
機 体 寸 法	全長	mm	2280		
	全幅	mm	1970		
	全高	mm	1100		
車 輪	前輪サイズ		20x10.00-8 4PR		
	後輪サイズ		16x650-8 2PR		
質 量		kg	580	590	616
エ ン ジ ン	型式		バンガード 305447 (ガソリン)		
	総排気量	cm ³	480		
	出力	KW(PS)/rpm	11.1(15)/3000		
走 行	駆動方式		HST 油圧無段変速		
	舵取り装置		マニュアル式		
	速度	前進	0~13(2 駆) 0~9(3 駆)		
		後進	0~6.5(2 駆) 0~4.5(3 駆)		
容 量	燃料タンク	L	20		
	油圧タンク	L	20		
	エンジンオイル	L	1.6		
バッテリー			30A19L		
リ ー ル モ ア	全刈幅	mm	1800		
	回転刃 幅	mm	660		
	径	mm	167		
	刈高範囲	mm	10~55		
	刃数	枚	4/7		
	バケット		装着可		
作業能力		m ² /h	11520 (走行速度 8km/h、効率 0.8 のとき)		

4. 配線図



5. 油圧回路図



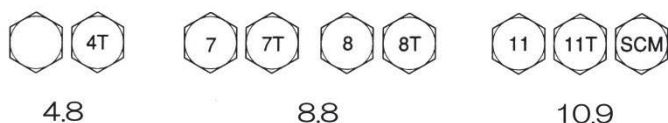
11章 その他

6. 締付トルク一覧

[ボルト・ナット]

ネジ 寸法	並 目				細 目		
	強度 区分	ネジ ピッチ	締付トルク (Nm)	締付トルク (kgf・cm)	ネジ ピッチ	締付トルク (Nm)	締付トルク (kgf・cm)
M4	4T, 4.8	0.7	1.5~2.1	15~21			
	7T, 8T, 8.8		2.6~3.6	27~37			
	10T, 10.9		3.5~4.9	36~50			
M5	4T, 4.8	0.8	2.8~4.0	29~41			
	7T, 8T, 8.8		4.9~6.9	50~70			
	10T, 10.9		6.7~9.3	68~96			
M6	4T, 4.8	1	4.9~6.9	50~70			
	7T, 8T, 8.8		8.3~11.3	85~115			
	10T, 10.9		11.7~15.7	120~160			
M8	4T, 4.8	1.25	12.7~16.7	130~170	1	15.2~20.2	155~205
	7T, 8T, 8.8		22.6~28.4	230~290		26.5~34.3	270~350
	10T, 10.9		28.5~36.3	290~370		30.4~40.2	310~410
M10	4T, 4.8	1.5	25.5~33.3	260~340	1.25	28.5~36.3	290~370
	7T, 8T, 8.8		44.1~55.9	450~570		49.0~62.8	500~640
	10T, 10.9		54.0~69.6	550~710		57.9~73.5	590~750
M12	4T, 4.8	1.75	37.3~47.1	380~480	1.25	43.1~54.9	440~560
	7T, 8T, 8.8		65.7~83.3	670~850		74.5~94.1	760~960
	10T, 10.9		92.0~116.0	940~1180		99.0~127.0	1010~1290
M14	4T, 4.8	2	62.8~80.4	670~850	1.5	69.7~87.3	710~890
	7T, 8T, 8.8		104.0~132.0	1060~1340		116.0~148.0	1190~1510
	10T, 10.9		139.0~175.0	1420~1780		149.0~185.0	1520~1880
M16	4T, 4.8	2	86.1~110.1	880~1120	1.5	91.0~115.0	930~1170
	7T, 8T, 8.8		149.0~185.0	1520~1880		157.0~193.0	1600~1960
	10T, 10.9		205.0~255.0	2100~2600		220.0~270.0	2250~2750
M18	4T, 4.8	2.0	113.0~141.0	1160~1440	1.5	131.0~163.0	1340~1660
	7T, 8T, 8.8		196.0~236.0	2000~2400		230.0~280.0	2350~2850
	10T, 10.9		275.0~333.0	2800~3400		299.0~367.0	3050~3750
M20	4T, 4.8	2.5	144.0~180.0	1470~1830	1.5	171.0~211.0	1750~2150
	7T, 8T, 8.8		240.0~290.0	2450~2950		275.0~333.0	2800~3400
	10T, 10.9		363.0~441.0	3700~4500		397.0~485.0	4050~4950

〔注意〕 ● 強度区分はボルトヘッドマークを参照してください。



11章 その他

[油圧ホース・油圧パイプ・アダプタ]

・ J I S オリングボス用アダプタおよび油圧配管ユニオンナット

G		1/4	3/8	1/2	3/4	1
締付	N・m	25.0	34.0	64.0	134.0	196.0
トルク	kgf・cm	254.9	346.7	652.6	1366.4	1998.6
六角対辺幅		HEX19	HEX22	HEX27	HEX36	HEX41

・ S A E オリングボス用アダプタおよび油圧配管ユニオンナット

UNF		7/16-20	9/16-18	3/4-16	7/8-14	1・1/16-12	1・5/16-12
締付	N・m	25.0	39.0	49.0	69.0	118.0	137.0
トルク	kgf・cm	254.9	397.7	499.7	703.6	1203.3	1397.0
六角対辺幅		HEX19	HEX22	HEX27	HEX27	HEX36	HEX41

・ 管用テーパネジ油圧アダプタ

R		1/8	1/4	3/8	1/2	3/4	1
締付	N・m	15.0	30.0	50.0	70.0	140.0	190.0
トルク	kgf・cm	153.0	305.9	509.9	713.8	1427.6	1937.5



株式会社IHIアグリテック

〒390-8714 長野県松本市石芝1丁目1番1号

TEL (0263) 88-0200 FAX (0263) 27-0380

URL : www.ihi.co.jp/iat/

IHI Agri-Tech Corporation

1-1-1, Ishishiba, Matsumoto-shi, Nagano, 390-8714, Japan

URL : www.ihi.co.jp/iat/en/